

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員			
榎本 光邦			

授業形態	講義（14コマ）、演習（1コマ）。講義中、随時10分程度のワーク（個別・グループ）も取り入れる。		
授業計画	第1回	心理学の歴史と方法 本講義のテーマ、講義の展開予定、受講上の注意などについて説明をする。また、心理学の歴史と研究方法について学び、本講義の到達目標について展望する。 key words：哲学における心理学、実験心理学の始まり（ヴェント）、ヴェント批判（ゲシュタルト心理学、行動主義、精神分析）	
	第2回	脳と心理学 脳科学と心理学は密接な関係にある。本講義では、心の働きの基盤となる脳と神経の基礎的な仕組みと働きについて学習する。 key words：人間の脳の構造、脳の働き、高次脳機能障害	
	第3回	心の発達 年齢によって人間の一生を大まかに分け、それぞれの区分における特徴や変化に焦点を当てて、これらの方向性や順序性を明らかにしていく心理学の分野は「発達心理学」とよばれている。本講義では人間の発達の諸側面、子どもの認知発達について学ぶ。 key words：こどもの認知発達（ピアジェ）、こどもの社会性の発達、生涯発達心理学	
	第4回	神経発達症／神経発達障害（1） 平成19年度から全国で特別支援教育が開始され、ここ数年の間に発達障害に関する知識が急速に広まっている。本講義では発達障害の1つであるAD/HDの特徴について学び、支援の方法について理解を深める。 key words：発達障害、AD/HD、特別支援教育	
	第5回	神経発達症／神経発達障害（2） 前回に続き、発達障害の1つであるSLDと、発達障害とは区別される知的能力障害（知的発達症／知的発達障害）の特徴について学び、支援の方法について理解を深める。 key words：SLD、知的能力障害（知的発達症／知的発達障害）、特別支援教育	
	第6回	神経発達症／神経発達障害（3） 前回に続き、発達障害の1つである自閉スペクトラム症の歴史と特徴について学ぶ。また、太田ステージ理論に基づく自閉症支援について学ぶ。 key words：自閉スペクトラム症、太田ステージ理論、特別支援教育	
	第7回	感覚と知覚 人間が外界に適応した行動をとるためには、外界を理解する必要がある。本講義では、我々が外界の情報を受容し、それを利用する手段である感覚と知覚について学ぶ。 key words：感覚、知覚的な体制化、奥行き知覚と知覚の恒常性、錯覚、運動の知覚	
	第8回	学習 一般に学習というと、学校における教科学習を想像するが、心理学において学習とは「経験によって生ずる行動の変容」と定義される。本講義では、行動主義が提唱した学習原理と、社会的学習理論を概観する。 key words：古典的（レスポナント）条件づけ（パブロフ）、オペラント条件づけ（スキナー）、社会的学習理論（バンデューラ）	
	第9回	記憶と思考 感覚・知覚によって入力されてきた情報は、私たちが環境に適応するために使用される。そのためには、情報を効率的に貯蔵し、この使用の方法についての戦略が必要になる。心理学では前者の課程を「記憶」と呼び、後者の課程を「思考」とよぶ。本講義では、人間の記憶と思考の仕組みについて学習する。 key words：記憶のしくみ、記憶の二重貯蔵モデル、問題解決と意思決定、推論	
	第10回	動機づけと情動 人の行動は多様であるが、それぞれの行動には、その行動と結びついた特定の原因があると考えられる。例えば、Aさんが勉強を中断して夜食を食べたのは「空腹だったから」であろうし、また、恋人と別れてBさんが泣いたのは「悲しかったから」であろう。行動の原因と考えられるもののうち、前者のグループは「動機づけ」とよばれ、後者のグループは「情動」とよばれる。本講義では、人間の動機づけと情動について理解を深める。 key words：動機づけと欲求、マズローの欲求階層モデル、感情・情動、表出行動とコミュニケーション、動機づけと情動の病理	
	第11回	性格（1） 私たちはそれぞれ、他の人とは違うその人らしい考え方、感じ方、そして行動の仕方（行動様式）を持っている。このような考え方や行動の仕方は、状況の変化にも関わらず、時や場所を越えて、比較的一貫し、安定している。このことから、私たちに、このような個人の独自性と統一性をもたらすものが存在すると考えられ、それは「性格」とよばれる。本講義では性格の代表的な理論である「類型論」と「特性論」や性格の5因子モデルについて学ぶ。 key words：類型論、特性論、性格の5因子モデル、性格検査の信頼性と妥当性	
	第12回	性格（2） 私たちの性格を客観的に測定する「性格検査」を体験し、自分の性格について把握する。	
	第13回	対人関係と集団 人は生きていく中で、様々な他者と出会い、交流しながら関係を築いていく。人間は本質的に一人では生きていくことのできない存在だからである。しかし、他者とともにあることは、人生	

	<p>を豊かにする半面、様々な苦悩の源泉ともなる。本講義では、私たちが他者をどのようにとらえ、関わっているか、他者からどのような影響を受けているかを学習する。 key words : 対人認知, 対人感情, 関係の維持</p> <p>第14回 心理療法 (1) 「コラージュ療法」 心理療法とは、「心の問題」に対する心理学の知見を用いた援助である。本講義では、心理療法の中でも「芸術療法」と呼ばれるものの1つである「コラージュ療法」を体験する。 key words : 芸術療法, コラージュ療法</p> <p>第15回 心理療法 (2) 「箱庭療法」 箱庭療法はローエンフェルトによって考案され、その後、カルフがユングの考えを導入して発展させ、河合隼雄によって我が国へ導入され、さらに世界中に広がった技法である。本講義では、箱庭療法の分析方法を紹介し、それを応用し、自らが作成したコラージュについて検討を行う。 key words : コラージュ療法, 箱庭療法, 空間象徴</p>
<p>科目の目的</p>	<p>心理学を学ぶことにより、社会を見つめる感性や現代を生きる人間としての生き方について考える力を養う。自己および他者への理解を深め、社会の中で適応的に生活するために必要な心理学の知識を身に付けることを目的とする。</p> <p>ディプロマポリシー：【知識・理解】</p>
<p>到達目標</p>	<p>1. 心理学理論による人間理解を深めるとともに自分について振り返る。 2. 心理学的援助の概要と方法について理解し、自らの専門分野に活かす。</p>
<p>関連科目</p>	<p>【教養・共通基盤科目群】教育学, 教育心理学, 生命倫理, 社会学, 大学の学び入門, 大学の学び—専門への誘い—, 他職種理解と連携</p> <p>【専門基礎科目群】生理学Ⅰ, 生理学Ⅱ, 人間発達学, 公衆衛生学, 臨床神経学Ⅰ (神経内科学), 臨床神経学Ⅱ (小児神経学・脳神経外科学), 精神医学, 小児科学, リハビリテーション医学, 老年医学, カウンセリング, リハビリテーション関連領域論, 臨床心理学, 安全管理, 医療統計学, 障害者スポーツ・レクリエーション論</p> <p>【専門科目群】小児理学療法学, 理学療法特殊講義</p>
<p>成績評価方法・基準</p>	<p>定期試験 (80%) に毎回の講義後に作成する小レポートの評価 (20%) を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う。</p>
<p>準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安</p>	<p>準備学習の内容については前回の講義時に指示をする。各単元について、1時間程度の予習・復習を行うことを目安とする。</p>
<p>教科書・参考書</p>	<p>【教科書】 山祐嗣・山口素子・小林知博編著 (2009) 「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」 北大路書房</p>
<p>オフィス・アワー</p>	<p>月・水・木・金の昼休み (1号館305研究室および1号館・4号館学生相談室)</p>
<p>国家試験出題基準</p>	<p>なし</p>
<p>履修条件・履修上の注意</p>	<p>講義中の私語, スマートフォン・携帯電話の使用, 講義と関係のない作業 (他の科目の学習等) は禁止します。注意しても止めない場合や, それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ, その回の講義の出席を認めない場合もあります。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員			
黒羽 正見			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 教育学オリエンテーション 本講義を貫くキーワード説明（暗黙知、薫習、自己認識、気付き、自己更新）・講義方法と評価</p> <p>第2回 日本の現代的教育課題を考える 一枚の折り紙から鶴を折る過程に埋め込まれているものは何か</p> <p>第3回 学校の中で営まれる教育（授業）について考える 事例の中の子どもにかかわる教師の教育行為からみえるものは何か</p> <p>第4回 学校社会の中の教師を考える（1） 工藤先生と22人の子供たちのビデオ視聴と自己認識としての自分考えをもつ。</p> <p>第5回 学校社会の中の教師を考える（2） 北海道の工藤先生と子供たちの織りなす教育の原風景とは何か</p> <p>第6回 学校という組織を考える 教室空間に見立てた大きく膨らんだ袋の中に存在するものは何か</p> <p>第7回 西洋の教育思想から教育方法を考える。 直観と体験、静けさと沈黙、個性化と社会化</p> <p>第8回 日本の道徳教育を考える（1） 授業「道徳の時間」の基本的理解</p> <p>第9回 日本の道徳教育を考える（2） 次期学習指導要領の中の「道徳の教科化」ははじめ防止に効果的か（ビデオ視聴）</p> <p>第10回 日本の道徳教育を考える（3） 次期学習指導要領の中の「道徳の教科化」ははじめ防止に効果的か</p> <p>第11回 情報化・競争社会の中の子どもと学校を考える 華やかな情報化社会や競争社会に潜む落とし穴（暗影部）とは何か</p> <p>第12回 家庭・学校・地域社会の変化と教育を考える 家庭・学校・地域社会の3つから、今あなたが一番実感する変貌は何か</p> <p>第13回 望ましい集団活動を考える 谷川俊太郎「生きる」の群読から学んだことは何か</p> <p>第14回 社会教育と生涯学習を考える 学び続ける、地球市民として生きるためには</p> <p>第15回 まとめ 自分の専門領域から自分にとってのより良い教育を考える</p>
科目の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・優れた人間性と豊かな教養を有している。 ・学習内容について、深い認識を有している。 ・実践的な指導力を有している。 ・現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について確かな見識を有している。 <p>【知識・理解】</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の教育体験を対象化して、客観的にとらえることができる。 ・教育の世界の経験や問題から受けた示唆をもとに、自分の専門領域に引き寄せて自身の考えを深めていくことができる。 ・教育の世界で蓄積されたきた「人間を学ぶ主体として成長させるための智慧」について、その意義や現代的課題を述べることができる。
関連科目	特になし
成績評価方法・基準	①毎時間の課題に対する振り返りシートの内容、②課題レポート、③毎回の課題解決のためのグループ学び合い 総合点は、①が30%、②が30%、③が40%である。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について、予習・復習を4時間行うことを目安とする。
教科書・参考書	教科書：「学際型現代学校教育概論」シナジェティックス研究会 著（金子書房） 参考書：なし
オフィス・アワー	10時半から11時（場所：非常勤講師室）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員			
原 芳典			

授業形態	講義（演習＝エクササイズを含む）15回
授業計画	<p>第1回 教育心理学を学ぶ意義 ガイダンス 学校教育とは 子供の誕生と消滅 エクササイズ（思い出に残る先生）</p> <p>第2回 発達の視点を持つ 様々な発達理論 思春期とは？ エクササイズ（自分史グラフ）</p> <p>第3回 仲間関係の発達 ギャンググループ チャムグループ ピアグループ エクササイズ</p> <p>第4回 児童期 フロイトの自我理論 心理学のあゆみ エクササイズ</p> <p>第5回 乳幼児期① 生理的早産仮説 有能な赤ちゃん 愛着形成 エクササイズ</p> <p>第6回 乳幼児期② ビデオ学習「赤ちゃん」</p> <p>第7回 青年期 エリクソンの発達理論 エクササイズ（アイデンティティ・ステータス）</p> <p>第8回 自己概念 ジェンダー・アイデンティティ 男女の会話スタイル エクササイズ</p> <p>第9回 学校教育相談 学校教育相談の歩み チェーン・インタビュー エクササイズ（聞く態度で信頼関係がつけられる）</p> <p>第10回 特別支援教育① 特別支援教育に至る経緯 発達障害の概念の整理 エクササイズ（視覚優位か聴覚優位か）</p> <p>第11回 特別支援教育①② 現場での実践的課題 支援の実際 エクササイズ</p> <p>第12回 教育現場での実践的諸問題① ビデオ学習「多様な生の子どもたち」 不登校やいじめの背景にある性的マイノリティ</p> <p>第13回 教育現場の実践的諸問題② ビデオ学習「傷つき傷つけられた果てに」 摂食障害 自傷行為（リストカット）</p> <p>第14回 学校教育と自己肯定感 自己肯定感 エレファントシンドローム エクササイズ（OKマークをペタン）</p> <p>第15回 学校臨床学という視点 潜在的カリキュラム 保健室と養護教諭 生活の場としての学校 まとめ エクササイズ（様々な私）</p>
科目の目的	人と人が関わる教育的出来事（事象）を体験的に振り返り、心理学的に解明・理解する
到達目標	教育心理学の概要を自分および周囲の人々の体験から理解し、効果的援助方法を習得する
関連科目	教育学 心理学 臨床心理学 カウンセリング ジェンダー論
成績評価方法・基準	定期試験50% および 課題（毎回提出を求める学習の理解や定着度を測る小レポートなど）50%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義終了時に、次回の予告をする。格別準備はいらないが自分の教育体験をよく想起しておく（10分程度）
教科書・参考書	教科書はとくに使用しない 参考書： 保坂亨著「いま、思春期を問い直す」東京大学出版会 2010年 近藤邦夫他編「子どもの成長 教師の成長～学校臨床の展開」2000
オフィス・アワー	昼休み及び授業前後（場所：非常勤講師室）

国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	とくになし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
衣川 隆			

授業形態	講義・演習
授業計画	<p>1 はじめに ―健康の保持・増進という視点から運動・スポーツを科学する― ①ライフスタイルと生活習慣病について ②適正体重の維持 ③日常生活の歩数の増加 日常生活のなかで積極的に体を動かそう ④運動不足病としての生活習慣病 ⑤「運動基準」「運動指針」</p> <p>2 運動とスポーツの生理学① ―呼吸・循環器系機能と運動・スポーツ― ①運動の持続と呼吸・循環器系 ②循環器の働きと血液の循環経路 ③運動に伴う呼吸・循環器系機能の変化</p> <p>3 運動とスポーツの生理学② ―呼吸・循環器系機能と運動・スポーツ― ④運動時の酸素利用 ⑤トレーニングによる呼吸・循環器系の適応</p> <p>4 運動と・スポーツの生理学③ ―神経・骨格筋系機能と運動・スポーツ― ①随意最大筋力を決めるもの ②身体運動にみられる筋と腱の相互作用 ③身体運動と神経機能</p> <p>5 運動と・スポーツの生理学④ ―エネルギー代謝と運動・スポーツ― ①1日のエネルギー消費量と貯蔵エネルギー量 ②一過性運動時のエネルギー代謝 ③トレーニングによるエネルギー代謝の変化</p> <p>6 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論① ―トレーニング概論― ①体カトレーニングの原理と原則</p> <p>7 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論② ―トレーニング概論― ②エネルギー発現能力を高めるためのトレーニング</p> <p>8 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論③ ①評価（アセスメント） ②コレクティブエクササイズ</p> <p>9 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論④ ③一例（ケンブリッジ飛鳥）（目標まで3か月、週3回、1時間） ④ドローイン</p> <p>10 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論 ― 筋肉とタンパク質― ①食事のアスリート度チェック ②栄養（タンパク質）チェック</p> <p>11 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論 ―筋肉とアミノ酸― ①アミノ酸とは ②BCAAについて ③グルタミンについて ④アルギニンについて ⑤クレアチンについて</p> <p>12 スポーツ心理① 他人のために自分ができること、目標設定とは？理想の自分とは？成功と失敗を振り返る、について考える。</p> <p>13 スポーツ心理② 起こり得る問題の対策、オープンウインド、について考える。</p> <p>14 スポーツ心理③ 気持ちをコントロールする、について考える。</p> <p>15 スポーツ心理④ 1か月の目標設定、について考える。</p>
科目の目的	<p>健康と運動、老化と寿命等に関しその維持と増進方法について考える。特に筋トレの効果は、筋力の向上と筋肥大だけでなく、肥満防止や生活習慣病の予防・改善、姿勢の改善、高齢者生活の障害を低減する。本講義では筋力トレーニングを体験しながらその効果をも体験しそれを発信できるようにする。またスポーツを行なうことや、その能力を高めることに心の問題は切り離せない。近年、スポーツを心理学的視点から科学的に究明しようとするスポーツ心理学の研究は、スポーツの普及・発展とともに広がりを見せ、スポーツへの参加や運動学習に関するものから、競技力向上や健康づくりに関するものまで多岐にわたっている。本講義では、スポーツ心理学の概要と自己の目標設定、情動の自己コントロール、スポーツの心理学的効果等も学習する。〔知識と理解〕</p>

到達目標	正しい筋力トレーニングやストレッチの方法を理解し、自発的に生涯に渡ってスポーツに取り組む心を身に付ける。またスポーツ心理学において、自己の目標設定と情動の自己コントロールを中心に学び、知識・行動を身に付ける。
関連科目	健康スポーツ実技、運動生理学、運動学Ⅰ、Ⅱ
成績評価方法・基準	講義時間内に小レポートを実施（50％）。小テスト（50％）。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1日（24時間）の生活リズムにおいての、自分自身の健康や体力、栄養について管理をしておくこと。よって1日の最後の15分間で、自分自身の健康や体力、栄養について振り返るための自己分析をしてほしい。
教科書・参考書	参考書 「トレーニング：健康・スポーツ科学講義 第2版」出村慎一監修 杏林書院 「これから学ぶスポーツ心理学」荒木雅信監修 大修館書店
オフィス・アワー	講義室または体育館で、講義の前後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
衣川 隆			

授業形態	実技・演習
授業計画	<p>1 オリエンテーション オリエンテーションと班編成&トレーニング</p> <p>2 体力測定① 体力測定（長座体前屈、握力、背筋力、立ち三段跳び、反復横跳び、プッシュアップ30秒、腹筋30秒、20m）</p> <p>3 心肺持久力 20mシャトルラン</p> <p>4 球技・トレーニング 大臀筋、ハムストリングス等の下肢を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び班対抗 バスケットボール</p> <p>5 球技・トレーニング 腓腹筋、前脛骨筋等の下肢を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バレーボール</p> <p>6 球技・トレーニング 体幹を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 フットサル</p> <p>7 球技・トレーニング 大胸筋、小胸筋、三角筋を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バスケットボール</p> <p>8 球技・トレーニング 菱形筋、前鋸筋等の肩甲骨周辺筋群を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バレーボール</p> <p>9 球技・トレーニング アイソトニック、アイソキネティック、アイソメトリックの考え方を中心とした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 フットサル</p> <p>10 球技・トレーニング RFDの考え方を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び班対抗 バスケットボール</p> <p>11 球技・トレーニング アナトミートレインの考え方を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バレーボール</p> <p>12 球技・トレーニング PNFストレッチ、及び 班対抗 フットサル</p> <p>13 球技・トレーニング バランストレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バスケットボール</p> <p>14 球技・トレーニング メディシングボールを使った筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バレーボール</p> <p>15 球技・トレーニング ドローインと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 フットサル</p>
科目の目的	<p>運動やスポーツが得意な人もあまり得意でない人も、手軽にできるトレーニングを行い、体力をつけることを狙いとします。一人で簡単にできる筋力トレーニングを行って、少しずつ無理なく、自分のペースでトレーニングしていきます。【知識と理解】</p> <p>各種スポーツでの身体活動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、その保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活が送れるよう自覚を促します。</p> <p>各種室内での軽運動・スポーツ・トレーニング等に親しみ、積極的に参加し、将来健康で豊かなライフスタイルの形成を目指しましょう。加えて、大学生活のスタート時が、より豊かで協同的な人間関係の構築と学生生活の充実の一助となるよう学生相互のコミュニケーションの機会を意図的に設けます。</p>
到達目標	<p>①健康と体力の重要性を理解し、維持向上をさせる。</p> <p>②生涯にわたって健康と体力を維持向上するための知識・行動を身に付ける。</p> <p>③自らの生活習慣を観察し、その問題点を把握して対策を立て心身の健康状態を整える。</p>
関連科目	健康スポーツ理論 運動生理学 運動学ⅠⅡ
成績評価方法・基準	授業時間内に小レポートを実施（80%）。小テスト（20%）。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1日（24時間）の生活リズムにおける体調管理と生活状況管理をしておくこと。よって1日の最後の15分間で、生活リズムを振り返るための自己分析をしてほしい。
教科書・参考書	参考書

	「トレーニング：健康・スポーツ科学講義 第2版」出村慎一監修 杏林書院 「運動学」伊東元 高橋正明編集 医学書院
オフィス・アワー	体育館で講義の前後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特になし

講義科目名称：生命倫理

授業コード：2P006

英文科目名称：Bioethics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
担当教員			
吉田 幸恵			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員			
金澤 秀嗣			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 予備考察： 哲〈学〉と哲〈学史〉 本講の目的と講義計画とに関する説明 哲学概論と哲学史 哲学史は「阿呆の画廊」か</p> <p>第2回 古代哲学 1 存在 「ある」とはどういうことか ミレトス学派/ ピュタゴラス学派/ 多元論</p> <p>第3回 古代哲学 2 生成 「ある」と「なる」 エレア学派/ ヘラクレイトス</p> <p>第4回 古代哲学 3 形而上学 〈イデア〉と〈エイドス〉 プラトン/ アリストテレス</p> <p>第5回 中世哲学 1 信仰と知は両立するか 中世教父哲学における神概念と人間像</p> <p>第6回 中世哲学 2 普遍が先か個物が先か スコラ哲学の論理</p> <p>第7回 近世・近代哲学 1 大陸合理論における〈精神〉と〈物質〉 デカルト</p> <p>第8回 近世・近代哲学 2 イギリス経験論による事物認識 ① ホブズ/ ロック</p> <p>第9回 近世・近代哲学 3 イギリス経験論による事物認識 ② バークリ/ ヒューム</p> <p>第10回 批判哲学とドイツ観念論 1 「私は何を知りうるか」 カント『純粹理性批判』の視座：〈現象〉と〈物自体〉</p> <p>第11回 批判哲学とドイツ観念論 2 「私は何をなすべきか」 カント『実践理性批判』の要請：〈定言命法〉</p> <p>第12回 批判哲学とドイツ観念論 3 絶対的自我と共同体 フヒテの超越論的哲学と国家論</p> <p>第13回 批判哲学とドイツ観念論 4 存在と認識の一致 人倫的自然としての民族 ヘーゲルによる主観的観念論・社会契約論・悟性国家論批判</p> <p>第14回 批判哲学とドイツ観念論 5 〈承認〉に基づく法の形成 ヘーゲルの相互承認論と法哲学</p> <p>第15回 講義の総括と展望 〈真理が顕現する過程〉としての哲学史</p>
科目の目的	<p>哲学とは、人間と世界との関わりをめぐってなされた先人の知的営為を体系化した学である。本講ではその成り立ちにつき、歴史の展開に即してトータルに把握できるよう講義を進めたい。差し当たり古代から近代へ至る哲学史の系譜をたどり、哲学という学問の生成と構造を明らかにすることを旨とする。</p> <p>講義は「授業計画」に則るものとする。但し、履修者の理解に鑑み、必要に応じて進捗を調整する場合もあるのでその旨留意されたい。</p> <p>ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）における位置づけ：本科目は【態度】に該当する。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人類の知的遺産たる哲学を学び、学士学位取得者が具備すべき知識を修得して教養を培う。 2. 1の営為を通じて、自分なりの人間観・社会観・世界観を確立する。 3. 1・2と併せて、高度の専門的職業人に必須とされる、論理的な思考方法を涵養する。
関連科目	<ul style="list-style-type: none"> ● 主として「生命倫理」・「人間と宗教」等の科目と関連を有する。 ● また特に近世・近代哲学が主題となる講義回にあつては、「法学（日本国憲法含む）」・「社会学」・「心理学」等の諸科目と関連するテーマも適宜取り上げられる。
成績評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ● 期末筆記試験（論述）の成績による（100％）。 ● 詳細については初回講義時に教場にて説明する。

準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> ● 次回講義のために Active Academy にて供せられている講義資料（レジュメ）をダウンロード・プリントアウトし（配布期間は原則として当該講義日までとする）、精読したうえで自分なりに要点・疑問点を摘示しておくこと。 ● 準備学習に必要な学習時間については、概ね1時間程度を目安とする。
教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書は用いない。講義は講義資料（レジュメ）に基づいて行われる。 ● もっとも、哲学史を概観した書籍が手元にあると講義の理解も捗るものと思料される。 ● 参考書の一例として、岩崎武雄著『西洋哲学史（再訂版）』（有斐閣）などが挙げられよう。 ● その他については、必要に応じて教場にて紹介したい。
オフィス・アワー	<ul style="list-style-type: none"> ● 講義の前後（場所：教場若しくは非常勤講師控室）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の 注意	<ul style="list-style-type: none"> ● 事前に Active Academy を経由して講義資料（レジュメ）をダウンロード・プリントアウトし、毎講義時に持参されたい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員			
尾形 大			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 〈変身〉する人間① カフカ「変身」の精読・読解、作者情報・時代背景の整理</p> <p>第2回 〈変身〉する人間② カフカ「変身」の読解（続）＋作品情報の整理・分析 ☆小レポートの作成</p> <p>第3回 〈共存〉する世界① 川上弘美「神様」の精読・読解、作者情報・時代背景の整理 ☆小レポートの返却・確認</p> <p>第4回 〈共存〉する世界② 川上弘美「神様」の読解（続）＋作品情報の整理・分析 ☆小レポートの作成</p> <p>第5回 〈神様〉の功罪① 志賀直哉「小僧の神様」の精読・読解、作者情報・時代背景の整理 ☆小レポートの返却・確認</p> <p>第6回 〈神様〉の功罪② 志賀直哉「小僧の神様」の読解（続）＋作品情報の整理・分析 ☆小レポートの作成</p> <p>第7回 〈復讐〉される人間① 宮沢賢治「注文の多い料理店」の精読・読解、作者情報・時代背景の整理 ☆小レポートの返却・確認</p> <p>第8回 〈復讐〉される人間② 宮沢賢治「注文の多い料理店」の読解（続）＋作品情報の整理・分析 ☆小レポートの作成</p> <p>第9回 〈虚無〉と女性① 平林たい子「施療室にて」の精読・読解、作者情報・時代背景の整理 ☆小レポートの返却・確認</p> <p>第10回 〈虚無〉と女性② 平林たい子「施療室にて」の読解（続）＋作品情報の整理・分析 ☆小レポートの作成</p> <p>第11回 〈幽閉〉される個人① 井伏鱒二「山椒魚」の精読・読解、作者情報・時代背景の整理 ☆小レポートの返却・確認</p> <p>第12回 〈幽閉〉される個人② 井伏鱒二「山椒魚」の読解（続）＋作品情報の整理・分析 ☆小レポートの作成</p> <p>第13回 〈戦争〉と文学① 大岡昇平「靴の話」の精読・読解、作者情報・時代背景の整理 ☆小レポートの返却・確認</p> <p>第14回 〈戦争〉と文学② 大岡昇平「靴の話」の読解（続）＋作品情報の整理・分析 ☆小レポートの作成</p> <p>第15回 既出事項のまとめ・総括 ☆小レポートの返却・確認</p>
科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文学作品の鑑賞を通じて、多様な社会・文化への幅広い視野と、他者に対する深い理解を得る〔知識・理解〕。 2. 情報を正確に読み取り論理的に組み立てる能力を涵養する。 3. 複数回の小レポートの作成を通じて、自分の考えを他者に論理的に伝達する方法を学習する〔技能・表現〕。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の力で教材を丁寧に読解し、不明な語句・表現を調べる。 2. 1を踏まえて授業内で解説された作者情報や同時代状況、読みのポイントを整理する。 3. 2を補助線にして作品をあらためて読み直す。その上で各自の初読の感想がどのように更新されたかを確認する。
関連科目	芸術・哲学・社会学
成績評価方法・基準	授業内で課される小レポート（60%）＋1600字程度の期末レポート（40%）。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前＝配布された作品の黙読（0.5時間） ・授業後＝授業内容の復習（1.0時間）
教科書・参考書	使用しません（授業内で配布）
オフィス・アワー	授業の前後（非常勤講師室）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員			
竹村 一男			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 宗教本質論 宗教とは何か 宗教の定義、類型と、宗教の研究分野について例をあげて解りやすく説明する。</p> <p>第2回 宗教本質論 宗教思想の変遷 過去の哲学、神学、心理学などの代表的な思想は、宗教をどのように解釈してきたかかを講述する。3大宗教について、その概要に言及する。</p> <p>第3回 キリスト教概説 キリスト教の教義と歴史、現状について講述する。その文化・歴史など画像を交え説明する。</p> <p>第4回 イスラム教概説 イスラム教の教義と歴史、現状について講述する。その文化・歴史など画像を交え説明する。</p> <p>第5回 仏教概説 仏教の教義と歴史、現状について講述し、中国仏教、チベット仏教にも言及する。その文化・歴史など画像を交え説明する。</p> <p>第6回 日本の仏教 日本の仏教の教義と歴史、現状について講述する。その文化・歴史など画像を交え説明する。</p> <p>第7回 日本の民俗宗教 祖霊信仰や神社神道などの日本の民俗宗教について、その歴史や事例、様々な儀礼や祭祀について、画像を交え説明する。</p> <p>第8回 世界の民族宗教 特定民族に受け継がれる民族宗教について、長い歴史と多数の信徒をもつユダヤ教とヒンドゥー教を中心に講述する。</p> <p>第9回 中国の民族宗教 中国の民族宗教である儒教と道教について、日本に与えた影響などにも言及し講述する。</p> <p>第10回 新宗教 1830年代以降に成立した新宗教について、天理教、創価学会、モルモン教会を例に、その概要と歴史、教義について講述する。</p> <p>第11回 宗教と科学 宗教研究の事例 主に比較宗教学、宗教社会などの社会科学の視点からなされてきた研究学説について概説し、講師の研究事例についても講述する。</p> <p>第12回 宗教と文化・芸術 宗教文化と芸術について画像を中心に講述する。宗教史跡などの世界文化遺産にも言及する。</p> <p>第13回 グローバル化と宗教 グローバル化が進む現在における宗教の諸問題や、宗教動向、宗教と民族紛争の事例などについて講述する。</p> <p>第14回 宗教と医療 宗教と医療に関する歴史や現状の諸問題について講述する。</p> <p>第15回 内村鑑三の宗教、及びまとめ 前半は、内村鑑三の宗教について講師の事例研究も交え講述する。後半は講義のまとめを行う。</p>
科目の目的	<p>宗教は私達の身近に存在する。多くの家庭には仏壇や神棚が置かれ、年中行事や冠婚葬祭も宗教により執り行われる。旅行などで各地に足を運ぶと、おおよそ神社仏閣、宗教施設が存在しない地域はない。そして、ある時は宗教に救済を求め、宗教を畏敬の対象とし、宗教に自らの死生観を求め、宗教にモラル以上の価値観を認める人達もいる。その一方では宗教戦争の様相を呈した民族紛争がニュースに登場することも多い。本授業においては、このように多くの諸相において人間に関わりをもつ「宗教」とは何かについて考え、さらに代表的な宗教を取上げ、その教義・歴史・文化社会的側面について講述する。宗教理解は私達人間の理解、さらに文化・異文化・社会理解にも繋がる。講義を通して、受講生が各々の視点、切り口から人間と宗教、さらに文化・社会の理解に近づくことを目的とする。なお、医療現場においては宗教の救済観、死生観理解も大切であることを付記したい。【態度】</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ● それぞれの宗教を比較し、その歴史や教義、死生観などを分析、説明することが出来る。 ● 宗教にかかわる文化や時事問題などを理解し、適切に説明することが出来る。 ● 将来の医療現場において、患者や関係者の宗教観を理解し、適切かつ発展的な行動がとれる。 ● 宗教とは何であるか、独自の宗教観を形成する。
関連科目	哲学 芸術 社会学
成績評価方法・基準	定期試験（100%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	自己学習15時間。講義内容の再確認と復習を行う。より深く学びたい受講生には、興味のある宗教分野に関する聖典や文学作品などに並行して、比較宗教学による文献の読解をお勧めする。文献例：『イスラーム文化』井筒俊彦（岩波文庫）、『儒教とは何か』加地伸行（中公新書）、『日本の民俗宗教』宮家 準（講談社学術文庫）、『世界の宗教』岸本英夫編（廃版）など。仏教、キリスト教関係なども多数あり。

教科書・参考書	教科書 使用しない。必要に応じてその都度、プリントを配付する。 参考書 1 『法華経』坂本幸男・岩本裕訳注（岩波文庫） 参考書 2 『共同訳聖書』（日本聖書協会） 参考書 3 『コーラン』井筒俊彦訳（岩波文庫）
オフィス・アワー	講義終了後の教室。または講師出校時の非常勤講師室。
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員			
東 晴美			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 ガイダンス：オペラ、歌舞伎から現代演劇まで。舞台芸術の幅広さと、他の芸術ジャンルとの交流 舞台芸術は、言語、音楽、身体、美術などの要素を備えた総合芸術であることを紹介します。また、舞台芸術が様々なジャンルの芸術と深い関係があることを理解し、その上で舞台芸術を学ぶ意義について考えます。</p> <p>第2回 ドラマ（物語）：創作された物語から、証言まで ギリシャ悲劇やシェイクスピアの作品において、ドラマはどのような構造を持っているかを考えます。またそのようなドラマを突き崩そうとしたベケットの作品や、ストーリーテリングや証言などポストドラマとしての現代演劇の取り組みを紹介します。</p> <p>第3回 劇場：社会と劇場、劇場と舞台芸術の関係 ギリシャ劇場から額縁舞台を経て、現代に至る劇場の変遷が、西洋の舞台芸術の歴史と呼応していることを学びます。また、舞台芸術における劇場の役割を考察します。</p> <p>第4回 観客：もう一人の作り手として 舞台芸術の観客は、他の芸術と異なり物語をともに作りあげる存在でもあります。舞台芸術と観客の関係性について、ギリシャ時代から現代までの変遷を考えます。</p> <p>第5回 身体：身体文化とことばの関係 俳優によって登場人物が表現されるリアリティについて、近代に絶大な影響を与えた俳優訓練法・スタニスラフスキーシステムを例に考察します。また、物語をつむぎだす言葉と身体の関係性を再考する実践も紹介します。</p> <p>第6回 ジェンダー：演じる性と演じられる性（小レポート） 演じる性として女優について考察します。また、舞台芸術では女性をどのように表現してきたか、演じられる性についても紹介します。翌週にレポートについてコメントをします。</p> <p>第7回 能：物語のビジュアルイメージ化 能楽の基礎について学びます。また物語がビジュアルにイメージ化され定着していくことを平家物語を題材にした作品を例に考えます。また、600年前に生まれた芸能が、今もなお息づいている理由に迫ります。</p> <p>第8回 狂言：笑いの表現 笑いは文化を象徴するキーワードです。笑いの芸能である狂言の基礎について学びます。またシェイクスピアの作品をもとにした新作狂言など、狂言師の新しい挑戦を紹介します。</p> <p>第9回 歌舞伎：現代に生きる古典芸能 歌舞伎の基礎について学びます。歌舞伎は冷凍保存された古典ではなく、常に同時代のエンターテインメントであろうとしています。能の物語を継承しながら、江戸時代としての現代劇として再生した「京鹿子娘道成寺」を例に考えます。</p> <p>第10回 文楽：人形の表現と語る表現（小レポート） 文楽の基礎について学びます。北野武の映画「ドールズ」を紹介しながら、今日における文楽の可能性を考えます。翌週にレポートについてコメントをします。</p> <p>第11回 ゲームと物語：日本の物語の再生 日本の歴史上の人物の伝記がゲームのコンテンツとなり、さらにその物語が、アニメ、漫画、舞台へと展開しています。このような流れを例に取りながら、日本の物語の新たな再生について考察します。</p> <p>第12回 アニメ・マンガ：絵画と文学、舞台メディアの交流史 欧米と異なり、大人も愛する日本のマンガ文化について、江戸時代における絵画、文学、演劇のメディアミックス文化を源流として考察します。また、能や、歌舞伎など日本の伝統的なコンテンツがどのようにアニメやマンガに取り入れられているかを探求します。</p> <p>第13回 「ライオンキング」と文楽 文楽の人形の技術は、世界的にも大きなインパクトを与え続けています。「ライオンキング」や「キングコング」など、文楽にインスパイアされた表現を紹介します。</p> <p>第14回 2.5次元ミュージカル 現代日本では、舞台芸術、アニメ、ゲームなどが、メディアの垣根を越え縦横に入り交じりつつあります。代表例として漫画「テニスの王子様」のアニメ、ゲーム、ミュージカル化を紹介します。また、二次創作と日本の著作権意識の源流について考察します。</p> <p>第15回 まとめ：ひろがる芸術の世界 ボーカロイド初音ミクによる近松門左衛門作「曾根崎心中」の道行きのパフォーマンスを例にとりながら、新しいメディアと既存の文化との関係について考察します。これまでの授業について振り返り、ポイントを整理します。その上で、講義全体を振り返ったレポートを書いてもらいます。</p>
科目の目的	<p>この授業では、オペラ、歌舞伎から現代演劇までを含む舞台芸術を例にとり、芸術について学びます。まず、他の芸術と異なる舞台芸術ならではの特色について、西洋舞台芸術の歴史を通して考えます。次に、西洋とは異なる独自の発展を遂げた日本の舞台芸術を概観します。また、難解だと思われがちな古典芸能の鑑賞のポイントも紹介します。最後に、漫画、アニメ、ゲーム、ミュージカルなどの現代の表象文化を、芸術の視点から考察します。これまでに舞台芸術が扱ってきたテーマを通して、人と社会に深い関心を持って、社会人としての教養を身</p>

	につけます。【態度】
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台芸術を例に、芸術学の基本を学ぶ。 ・日本の芸能の特色を学ぶ。また、伝統芸能は、江戸時代以前の文化でありながら、近代以降も同時代の文化の影響も受けていることを理解する。 ・現代のメディアに、伝統的なコンテンツがどのように取り入れられているかを学ぶ。 ・舞台芸術が扱っているテーマを通して、人と社会に深い関心を持つ力を身につける。
関連科目	社会学
成績評価方法・基準	授業中の小レポート（2回）各30%、期末教場レポート30%、授業中アンケートなど10%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	新聞、雑誌、テレビなどで紹介される舞台芸術や芸能に関する情報に関心を持つことがのぞましい。授業中のアンケートや授業後のレポートを提出に備えて1時間程度の学習をすることが望ましい。
教科書・参考書	毎回プリントを配布します。
オフィス・アワー	木曜日 14:00～14:40
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	各テーマと、自分が現在関心をもっていることと関連づけながら学ぶことを求めます。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員			
水林 翔			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 法学概論1 ガイダンス、法とは何か</p> <p>第2回 法学概論2 各法分野、近代法の歴史</p> <p>第3回 憲法概論1 近代憲法とは何か</p> <p>第4回 憲法概論2 日本憲法史</p> <p>第5回 憲法概論3 日本国憲法の基本原理</p> <p>第6回 人権1 人権総論、包括的基本権</p> <p>第7回 人権2 内心の自由、信教の自由</p> <p>第8回 人権3 表現の自由</p> <p>第9回 人権4 憲法と社会 労働法と憲法</p> <p>第10回 人権5 憲法と社会 生存権、社会保障</p> <p>第11回 人権6 男女平等</p> <p>第12回 人権7 参政権</p> <p>第13回 人権8 人身の自由</p> <p>第14回 統治1 立法権、行政権</p> <p>第15回 統治2 司法権、憲法保障</p>
科目の目的	近代国家に生きる我々は、主権者として、消費者として、職業人として、様々な場面で法とのかかわりを有している。したがって社会の一員として法についての基礎的な知識・理解を得ることは必要不可欠である。本科目では、近代法及び近代憲法についての基本的な知識を提供することを目的とする。なお本科目はディプロマポリシー及びカリキュラムマップにおける【知識・理解】に該当する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・近代法とりわけ近代憲法の意義・基礎的な内容を理解できる。 ・社会の多様な問題とのかかわりの中で、法の役割・意義を理解できる。
関連科目	人間と宗教、社会学、経済学
成績評価方法・基準	筆記試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義で扱った内容について参考書等を用いた復習を推奨する(1時間程度)。
教科書・参考書	<p>教科書は特に指定しない。</p> <p>参考書として以下のものを紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊藤正己「現代法学入門 第4版」有斐閣双書 ・渋谷秀樹「憲法への招待」岩波新書 ・芦部信喜「憲法 第6版」岩波書店 <p>なおレジュメをActive Academyで配布するので、各自印刷の上持参のこと。</p>
オフィス・アワー	質問等あれば講義中あるいは講義後に受け付ける。
国家試験出題基準	
履修条件・履修上	・講義資料は前日までにActive Academyにアップするので各自印刷の上持参。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員			
坂本 祐子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 家族をとらえる（1） 近代家族の基本概念 近代家族の特徴 近代家族の誕生 家族とはなにか あなたが考える家族とは①（小レポート）</p> <p>第2回 家族をとらえる（2） 家族の変動 家族と世帯 世帯の動向 家族周期 （小レポートのフィードバック含む）</p> <p>第3回 家族の機能（1） 近代家族が担ってきた基本機能=生活保障</p> <p>第4回 家族の機能（2） 生産機能 消費機能 社会的・個人的機能</p> <p>第5回 家族のつながり（1） 家族のつながりの変化と現状 家族行動の個別化</p> <p>第6回 家族のつながり（2） 家族のつながりの変化による影響 子育て負担の偏り</p> <p>第7回 家族をめぐる制度 “夫婦別姓”とはどういう問題か あなたが考える家族とは②（小レポート）</p> <p>第8回 家庭経済（1） 家庭経済内部の4つの活動とその循環 （小レポートのフィードバック含む）</p> <p>第9回 家庭経済（2） 生活とお金 ワーキングプア</p> <p>第10回 性別役割分業（1） 性別役割分業の始まり</p> <p>第11回 性別役割分業（2） 社会保障とジェンダー</p> <p>第12回 ワーク・ライフ・バランス（1） ワーク・ライフ・バランス 働く人の生活への配慮</p> <p>第13回 ワーク・ライフ・バランス（2） 家庭責任をもつ人の仕事への支援</p> <p>第14回 ワーク・ライフ・バランス（3） 医療従事者としての成長と私生活の運営・充実 求められる家族への支援とは何か</p> <p>第15回 ふりかえり 家族とは 「家族」の存在や意味・社会のあり方</p>
科目の目的	<p>学生は皆、家族関係の中にあり、今後その多くは自ら新しい家族を形成していく。また、保健医療サービスの対象者の多くは家族関係の中にあり、サービス提供にあたっては、その人だけでなく、家族や家族関係をも対象とすることが必須である。この科目は、職業人、生活者、市民としての家族に関する見識と“家族する力”の養成と、家族を踏まえた適切な保健医療サービスの提供を可能にする知識の形成を目的とする。【関心・意欲】</p>
到達目標	<p>1. 近代家族の特徴、家族機能など、家族を理解し、考察し、ひいては将来サービス対象とするための基本的な概念を習得する</p> <p>2. 自分と定位家族、自らが将来つくるかもしれない家族、そこにおける家庭生活、家庭生活と職業生活のバランス等についてより具体的に考えられるようになる</p> <p>3. サービス対象者が家族関係の中にあることや、当事者だけでなく家族関係もサービス対象となることが認識できる</p>
関連科目	法学（日本国憲法含む） 経済学 生活文化と医療 社会福祉・地域サービス論 地域ボランティア活動論
成績評価方法・基準	講義時間内に、何度か小レポートを実施。定期試験70%・小レポート30%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	Active Academyにより資料を配布するので、資料内の不明な用語等を調べてくること。また、前回講義の重要事項を見直しておくこと。日頃から新聞に目を通すことを習慣にし、1週間で4時間半以上を自己学習に必要な時間の目安とする。
教科書・参考書	使用しない
オフィス・アワー	授業の前後（場所：非常勤講師室）
国家試験出題基準	

履修条件・履修上の注意	Active Academyにより資料を配布するので（前回講義翌日から当該日まで）、各自必ず印刷して授業に持参すること。
-------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員			
鈴木 英恵			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業の進め方の説明をします。生活文化を軸に、迷信と俗信の違いを考えます。</p> <p>第2回 医療民俗学とは？ 医療と民俗の接点を考え、生活文化から生成された医療習俗の特徴を理解します。</p> <p>第3回 人びとの暮らしと医療民俗学 人びとの暮らしから医療に関連する民間療法やまじない、祭礼、年中行事を学びます。</p> <p>第4回 民間信仰と石仏 道祖神を取り上げ、石仏に込められた人びとの思いと信仰内容を取りあげます。あわせて、現代社会に機能する道祖神のあり方をみていきます。</p> <p>第5回 映像鑑賞 盲目の旅芸人 瞽女さん 三味線を手を持って、越後や北陸の村々を巡った瞽女さんの生活様式を考えます。</p> <p>第6回 生死の表現 テキストを中心に『徒然草』、熊野観心十界曼荼羅図など、文学作品や絵画に描かれた生死の資料を取り上げ、その内容を理解します。</p> <p>第7回 いのち観と人生儀礼 「いのち」とは何かをじっくり考える機会を持ちます。テキストの内容に合わせて「いのち」を軸とした、人の一生の各種儀礼とその節目について考えます。</p> <p>第8回 名づけの民俗とキラキラネーム 伝承的な名づけと、現代的な名づけといえるキラキラネームの命名方法と特徴を理解します。</p> <p>第9回 霊魂が宿るもの 私たちが普段何気なく使う物には、霊魂が宿ると言われています。テキストの内容から、物に宿る霊魂観について考えます。</p> <p>第10回 老いと民俗 生活文化の視点（主に民俗芸能）から、地域社会で活躍する高齢者の「生きがい」と健康維持の方法をみていきます。また老いと福祉に関することも学びます。</p> <p>第11回 長寿祝いと民俗 テキストに沿って全国各地の長寿祝いの方法をみていきます。また、高齢化社会を象徴する人生儀礼について考えます。</p> <p>第12回 病気と民俗 病気をめぐる生活文化のあり方と、暦との関係を理解します。</p> <p>第13回 看取りと死 最後の時を迎えるとき人はどのような思いを持つのか、また臨終に際し残された家族はどのような行動をするのか、テキストを中心にその心情を考えます。</p> <p>第14回 お葬式の今昔 伝統的な葬送儀礼を出発点に、今日の葬送儀礼の特徴を理解します。過去と現在の葬儀を比較し、その変化を考えます。</p> <p>第15回 まとめ（課題提出の説明） 本授業では、「死生観」についてレポートを提出してもらいます。今後、医療従事者として患者やその家族と接する機会があると考えます。レポートでは、自分の原点に振り返り、生を探求し、どのような最期を迎えたいかを書いてもらいます。死生観に対する自分の考えを知ることが、患者とその家族の心理・精神的な面を考慮し接することが出来ると考えます。最後の授業ではレポート課題の説明と書き方、これまでの授業内容の確認をします。</p>
科目の目的	本授業では、私たちの身近な暮らしを取り上げ、具体的に一つずつ丁寧に紹介していきます。日常的生活と医療の繋がりを言及し、現代医療の諸問題にも触れていきたいと思えます。病に掛かると、人びとは現代医療を受ける一方で、健康を願い、まじないやお守りなど呪術的医療を心の拠り所としています。地域社会に根差した医療的習俗やその方法を学ぶことで、患者や家族の心理・精神的な面を考慮できる保健医療従事者になることを目的とします。
到達目標	医療と民俗（生活文化・知識）の接点を学ぶなかで、現代社会にみられる伝統的な儀礼や慣行の意味を理解できるよう、生活に関わる医療と教養を身につけます。何気なく見過ごしてしまう日常生活に眼を向けることで、医療従事者としてのいろいろな視点から物事を捉え、豊かなコミュニケーション能力を保持することを目標とします。
関連科目	生命倫理、社会学
成績評価方法・基準	試験（80%）、課題提出（20%） 試験の点数に関わらず、課題提出は必須です。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	日々の生活の中で、医療に関連する事柄（健康維持、病気など）に興味を持ってください。また、身近な人たち（父母、祖父母など世代の異なる人）がどのようにに人生の節目を迎え、年を重ねてきたのか、関心を寄せましょう。自分の周りを注意深く観察することで、問題点を発見する癖がつかます。授業前に、90分ほど時間をかけてテキストをじっくり読み、授業内容と合わせて自分なりの考えをまとめてみてください。

教科書・参考書	<p>教科書：板橋春夫 2010『叢書・いのちの民俗学3 生死 看取りと臨終の民俗 ゆらぐ伝統的生命観』社会評論社</p> <p>参考書1：福田アジオ他編 2011『図解案内 日本の民俗』吉川弘文館</p> <p>参考書2：市川秀之・福田アジオ他編 2015『はじめて学ぶ民俗学』ミネルヴァ書房</p>
オフィス・アワー	授業の前後（場所：非常勤講師室）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員			
飯島 正義			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 経済学で何を学ぶのか 経済学を学ぶことの意義、授業内容と進め方、成績評価等について説明します。</p> <p>第2回 経済学の歩み（1） アダム・スミスを取り上げます。</p> <p>第3回 経済学の歩み（2） マルクス、歴史学派を取り上げます。</p> <p>第3回 経済学の歩み（3） 新古典派、ケインズを取り上げます。</p> <p>第4回 国民経済の仕組み 経済の3主体、国民経済の仕組みと租税について説明します。</p> <p>第5回 景気循環 景気循環とは何か、日本の「景気指標」（景気動向指数、日銀短観等）を読んでいます。</p> <p>第6回 物価 物価とは何か、物価指数、インフレ・デフレと私たちの生活について説明します。</p> <p>第7回 政府の役割 市場メカニズム、市場の失敗の是正、経済の安定化について説明します。</p> <p>第8回 財政・金融政策（1） 財政政策（税制、財政支出）について説明します。</p> <p>第9回 財政・金融政策（2） 金融政策（金利政策、公開市場操作政策、預金準備率操作政策、非伝統的金融政策）について説明します。</p> <p>第10回 国内総生産（GDP）（1） 国内総生産とは何か、三面等価の原則について説明します。</p> <p>第11回 国内総生産（GDP）（2） 三面等価の原則の視点から「国民経済計算」（内閣府）のデータを読んでいます。</p> <p>第12回 経済成長 経済成長とは何か、成長の要因、日本の経済成長の推移を確認します。</p> <p>第12回 貿易・国際収支 国際収支とは何か、「国際収支表」を通して日本の貿易・国際収支の現状について確認します。</p> <p>第13回 為替レート 為替レートとは何か、為替レートの変動と日本経済への影響について説明します。</p> <p>第14回 少子高齢化と日本経済 少子高齢化とは何か、少子高齢化が今後の日本経済にどのような影響を及ぼすのかについて説明します。</p> <p>第15回 日本の社会保障制度 日本の社会保障制度（医療・年金・介護）の現状について説明します。</p>
科目の目的	経済学は、私たちの経済生活の中に存在する本質を明らかにすることを目的とした学問です。したがって、経済学を学ぶということは、私たちの経済生活そのものを知ることにつながります。【知識・理解】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学の基礎知識を身につけることができます。 2. 経済学の基礎知識を使って、現実の経済ニュース等を理解できるようになります。
関連科目	特にありません。
成績評価方法・基準	授業内における小テスト100%（3回、プリント参照可）、小テストのプリントは授業時に回収し、次週返却します。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	プリント資料で前回の授業内容を復習すると共に、次回の授業内容をシラバス、Web上の資料で大筋をつかんでおいて下さい。その際、授業で紹介する参考文献等を利用して2時間復習・予習にあてて下さい。
教科書・参考書	教科書は使用しません。授業ではプリント資料を使います。また、参考書については必要に応じて紹介します。
オフィス・アワー	授業の前後の時間に講師室で対応します。
国家試験出題基準	該当しません。

履修条件・履修上の注意	授業資料をWeb上に添付しますので、各自印刷して持参して下さい。なお、資料の添付期間は前回授業翌日から2週間とします。
-------------	---

講義科目名称：地域ボランティア活動論

授業コード：2P015

英文科目名称：Volunteer Activities in a Community

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	選択
担当教員			
竹澤 泰子			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員			
西菌 大実			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 環境とは 環境問題の範囲と拝啓</p> <p>2 地球の環境の構造 地球の自然の成り立ち</p> <p>3 生活を支える資源 再生可能資源と再生不能資源</p> <p>4 環境問題の変遷 公害問題から地球環境問題へ</p> <p>5 典型七公害 足尾鉍毒、四大公害病</p> <p>6 有害物質による環境汚染 イタイイタイ病を事例として</p> <p>7 水質汚濁（Ⅰ） 水質汚濁の原因、生活排水、BOD</p> <p>8 水質汚濁（Ⅱ） 水質汚濁の対策、下水道と浄化槽、多自然川づくり</p> <p>9 オゾン層破壊 オゾン破壊物質、紫外線</p> <p>10 気候変動（Ⅰ） 温室効果ガス、気候変動の状況と見通し</p> <p>11 気候変動（Ⅱ） 予防原則、先進国・途上国の責任、パリ協定</p> <p>12 エネルギー問題 1次エネルギー、再生可能エネルギー</p> <p>13 廃棄物問題 一般廃棄物、産業廃棄物、感染性廃棄物</p> <p>14 循環型社会 3R、熱回収</p> <p>15 持続可能社会 再生可能資源中心の社会づくり</p>
科目の目的	環境問題への認識は、現代社会を生きていくために不可欠の要素である。また、疾病の発症するバックグラウンドとして、その時代の環境が色濃く反映している。環境理解を深めることによって、社会人としてよりよく生き、適切な保健医療サービスを提供できるようになることを目指す。【知識・理解】 【思考・判断】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境問題の背景と発生原因への理解 2. 公害問題、地球環境問題とその対策、関連する法制度の理解 3. 資源・エネルギーの適切な利用の理解と循環型社会・持続可能社会構築への認識
関連科目	特になし
成績評価方法・基準	定期試験（100%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	自筆ノートの整備、30時間
教科書・参考書	使用しない（プリント配布）
オフィス・アワー	授業の前後・昼休み、非常勤講師室
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
佐藤久美子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 ヒトへの進化 生命を支える物質（1） ①生命の誕生と進化、ヒトへの進化について概説 ②生命現象の普遍的な特質、一様性、多様性、連続性について ③生命活動に主要な役割を持つ構成成分(1) ・水の重要性 ・タンパク質</p> <p>第2回 生命を支える物質（2） 生命活動に主要な役割を持つ構成成分(2) ・炭水化物（糖質） ・脂質 ・核酸 ・無機質（無機塩類）</p> <p>第2回～3回 生命の単位 ①ウイルス、原核細胞（細菌類を含む）、真核細胞 ②真核細胞の構造と機能 ・細胞膜の構造と機能 ・細胞質基質の役割 ・核の構造と機能 ・粗面小胞体の構造と機能 ・滑面小胞体の構造と機能 ・ゴルジ体の構造と機能 ・リソソーム ・ペルオキシソーム ・ミトコンドリア ・色素体 ・細胞骨格の種類とその役割</p> <p>第4回～5回 細胞の増殖・生殖細胞の形成 ①細胞周期 ②間期（S期、G2期、G1期） ③細胞周期の調節 ④分裂期（M期） ・体細胞分裂～染色体の構造、娘細胞への染色体（遺伝子）の分配～ ・減数分裂～生殖細胞の形成～と配偶子の形成～</p> <p>第6～7回 受精、発生、分化 ①無性生殖と有性生殖 ②受精 ③発生と分化のしくみ 卵割と胞胚形成 ④胚葉形成（中期胞胚変（遷）移と母性胚性変（遷）移） ⑤器官形成 ⑥形態形成とアポトーシス</p> <p>第8回 ヒトの染色体と遺伝子、メンデルの法則と形質の遺伝 ①ヒトの染色体と遺伝子 ②メンデルの法則と形質の遺伝 ③A B O血液型の遺伝 ④家系図の書き方 ⑤遺伝病の原因——遺伝子変異</p>
科目の目的	高等学校「生物基礎」履修済みを前提に、医療系専門職の専門課程の学習を理解するために必要な生命現象の基礎知識を深めることを目的とする。特に生物学Aでは生体を構成する基本単位である細胞について、その構造と機能、細胞の増殖と生殖細胞の形成などを学び、さらに生命の連続性を担保する受精、発生、形質の遺伝について知識を深めることを目的とする。【知識・理解】
到達目標	ヒトの生命活動の全体像を理解するために次の事項を理解し、説明できる力を身につける。 ①生命の起源からヒトへの進化、生命現象の特質について理解する。 ②細胞構成成分である水の重要性を理解し、タンパク質、糖、脂質、核酸、無機質について説明できる ③細胞の構造、細胞構成成分、細胞内小器官の働きや仕組みを理解する ④細胞の周期とその調節、体細胞分裂と減数分裂を図示して詳細に説明できる。 ⑤生殖、発生、分化のしくみ、形態形成とアポトーシスについて理解する。 ⑥ヒトの染色体と遺伝子、メンデルの法則とヒト正常形質の遺伝について説明できる。
関連科目	化学A、解剖学Ⅰ、生理学Ⅰ、生化学
成績評価方法・基準	定期試験の成績（70%）及び講義終了時に提出するリアクションペーパー（30%）により評価する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回ともシラバスの講義内容に一致する高等学校生物の教科書または補助教材を1時間程度復習しておくこと。特に、授業範囲の専門用語についてわからないときには生物学事典（岩波書店、東京化学同人社など）で調べ、理解しておくこと。
教科書・参考書	教科書：「人の生命科学」 佐々木史江、堀口 毅、岸 邦和、西川純雄（医歯薬出版株式会社） 参考書：1. 「Essential細胞生物学原書第4版」中村桂子、松原謙一 監訳（南工堂） 2. アメリカ版 大学生物学の教科書1巻～3巻 D. サダヴァ他著 ブルー--バックス（講談社） 3. 「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」 和田 勝（羊土社）
オフィス・アワー	授業終了後に教室で、または随時e-mailで質問を受ける。
国家試験出題基準	

履修条件・履修上の注意	生物学全般、特に生命活動を支えるエネルギーの産生や基礎生物学分野の研究が医療に活かされている現状、ヒトの遺伝などを理解するために、後期に開講される生物学Bを併せて履修することが望ましい。
-------------	---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員			
佐藤久美子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回～2回 生命活動とエネルギー ①酵素の性質と酵素反応 ②生命活動とエネルギー ・光合成：光エネルギーを利用して二酸化炭素から炭水化物を作り出す過程について ・呼吸：生体のエネルギー産生過程とミトコンドリアの役割（解糖系からTCA回路、電子伝達系によるエネルギーの産生）について</p> <p>第2回～3回 細胞科学の先端研究概観 ①オミックス解析の現状と課題 ②細胞内タンパク質とオートファジー ③細胞周期調節のしくみとがん化 ④幹細胞－幹細胞の種類と細胞の再生－ ⑤ES細胞とiPS細胞 ⑥細胞分裂の限界と老化</p> <p>第4回～5回 遺伝－ヒトを中心に－その1 ①DNA：複製の機構と遺伝情報 ②遺伝情報発現の詳細 ③原核生物と真核生物における遺伝情報発現コントロール ④特定の時期（環境）に特定の遺伝子が発現する機構（あるいは発現しない機構） ⑤性染色体の不活化 ⑥DNAの変異と修復機構</p> <p>第6回 遺伝－ヒトを中心に－その2 ①単一形質（メンデル形質）で発現する遺伝病 常染色体性優性遺伝病、劣性遺伝病と伴性遺伝病 ②ミトコンドリア病 ③多因子遺伝病 ④保因者・患者の出現頻度－ハーディーワインベルグの法則の有用性－ ⑤染色体異常</p> <p>第7～8回 ヒトの受精と初期発生 ①ヒトの配偶子形成：減数分裂と遺伝子の組み換え、精子と卵子の形成 ②受精：精子の先体反応、受精と多精拒否の機構 ③胚盤胞の形成と着床 ④内細胞塊の分化と胚葉の形成 ⑤胚葉の分化 ⑥前胚子期と胚子期 ⑦発生をつかさどる遺伝子 ⑧先天異常発生の要因</p>
科目の目的	高等学校「生物基礎」履修済みを前提に、保健医療の専門職として、先進・高度化しつつある専門領域の学習を理解するために必要な生命科学の基礎知識を深めることを目的とする。本講義では、生物学Aで学んだ知識をベースに、生命活動を支えるエネルギー獲得、医療分野に直接関連する基礎生物学分野の研究進捗状況、真核細胞のDNA複製や遺伝子の情報発現、情報発現の調節などを詳しく学ぶ。また、ヒトの遺伝病、先天異常及びヒトの初期発生について学ぶ。【知識・理解】
到達目標	生物学Aの学習内容を基礎として次の事項を理解し、説明できる力を身につける。 ①光合成によるエネルギー獲得の詳細と呼吸による生命活動のエネルギー産生について詳細に説明できる。 ②細胞科学の先端基礎研究と医療分野との関連について理解し、説明できる力を身につける。 ③真核細胞におけるDNAの複製、遺伝情報発現、情報発現コントロール、DNAの変異などについて知識を深める。 ④ヒトのメンデル様式による遺伝病およびそれ以外の要因による遺伝病について学び、説明できる。 ⑤ヒトの受精、発生初期における細胞分裂の詳細と形態形成及び先天異常発生の要因について学び、説明できる。
関連科目	生物学A、化学A、解剖学Ⅰ、生理学Ⅰ、生化学
成績評価方法・基準	定期試験の成績（70%）及び講義終了時に提出するリアクションペーパー（30%）により評価する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回ともシラバスの講義内容に一致する高等学校生物の教科書または補助教材を1時間程度復習しておくこと。特に、授業範囲の専門用語についてわからないときには生物学事典（岩波書店、東京化学同人社など）で調べ、理解しておくこと。
教科書・参考書	教科書：「人の生命科学」 佐々木史江、堀口 毅、岸 邦和、西川純雄（医歯薬出版株式会社） 参考書：1. 「Essential細胞生物学原書第4版」中村桂子、松原謙一 監訳（南工堂） 2. アメリカ版 大学生物学の教科書1巻～3巻」 D. サダヴァ他著 ブルーバックス（講談社） 3. 「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」 和田 勝（羊土社）
オフィス・アワー	授業終了後に教室で、または随時e-mailで質問を受ける
国家試験出題基準	

履修条件・履修上の注意	生物学Aを履修していることが望ましい。
-------------	---------------------

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
栗田 昌裕			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 数と式 多項式の四則演算を復習する。日常で数や式を操作するセンスを伸ばすことを促す。</p> <p>2 方程式と不等式 1次不等式、2次方程式の復習をする。日常や医療の場でもそのセンスを役立てることを促す</p> <p>3 2次関数 関数とグラフの概念を復習する。 関数の最大・最少の求め方を整理する。 2次関数のグラフと2次方程式・2次不等式の関係。 生活の中で数量的なセンスを発揮することを促す。</p> <p>4 図形と計量 三角比、正弦定理と余弦定理、図形の計量に関して復習する。 生活の中でそのセンスを磨くことを考える。</p> <p>5 個数の処理 集合とその要素の個数、場合の数、順列、組み合わせ・二項定理の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを促す。</p> <p>6 確率 事象と確率、確率の性質、反復試行の確率、期待値の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを考える。</p> <p>7 論理と命題 命題と条件、必要条件、十分条件、逆、裏、対偶の復習。生活や医療の場で論理的にものごとをとらえるセンスを磨くことを促す。</p> <p>8 基礎統計学 統計学の基礎的な概念と方法を学ぶ。</p>
科目の目的	高校数学の基礎を復習し、数学の各分野の概念を再確認し、それを医療を含む生活での現象に結びつけて応用するセンスと技能を伸ばし、将来、医療従事者として数理現象を見出し、定量的に表現し、その上で分析、評価するための基礎的な能力を磨く。具体的には、数と式、方程式と不等式、二次関数、図形と軽量、場合の数と確率、基礎統計学について学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的な数学の概念の復習をする。 2. 数学の概念や道具を自力で扱えるようにする。 3. 定量的にものごとを評価するセンスを磨く。
関連科目	数学B、化学A・B、物理学A・B、医療統計学、生体計測工学
成績評価方法・基準	筆記試験(100%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	高校数学教科書の相当部分を読んでから講義に臨めばより効果的であるが、予習よりも講義内容の復習を期待する。前回の内容が定着したかどうかを確認しておくことが、次の講義の準備学習である。
教科書・参考書	教科書・参考書：特になし。 毎回、講義内容に関連する内容のプリントを準備し、Active Academyで配布する。
オフィス・アワー	火曜日の昼休み
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	意欲があれば数学Bも履修することが望ましい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
栗田 昌裕			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 三角関数 一般角と弧度法。三角関数の加法定理。三角関数の合成。和と積の変換。</p> <p>2 複素数 複素数の導入と計算方。複素共役。極座標表示と回転。</p> <p>3 指数関数と対数関数 指数法則。実数のべき。対数の導入。対数法則。</p> <p>4 ベクトルと行列 ベクトルの導入。行列の基本的な性質。</p> <p>5 微分の導入 微分の定義。整式の微分。</p> <p>6 微分の基本性質 積の微分。合成関数の微分。三角関数の微分。</p> <p>7 積分の導入 不定積分。定積分。</p> <p>8 積分の応用 部分積分。微分方程式。</p>
科目の目的	医療従事者には、個々の患者の生理的状態や疾病状態、患者集団の動向などを種々のデータによって定量的にとらえ、分析・評価する能力が求められる。また患者への治療・検査刺激の量的な理解と評価も重油尾である。本科目はそれらのための基礎的数学知識の確認に加えて、発展的な知識を身につけ、専門科目の円滑な理解につなぐことを目指す。具体的には、三角関数、複素数、指数関数、対数関数、ベクトルと行列、微分・積分、微分方程式、部分積分などについて学ぶ。
到達目標	1. 医療や科学を学ぶためのやや進んだ数学的な知識と技能を学ぶ。 2. 数理現象を理解したり、評価したり、暑かたりする数学的なセンスを養う。
関連科目	数学B、化学A・B、物理学A・B、医療統計学、生体計測工学
成績評価方法・基準	筆記試験（100%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	高校数学の教科書の該当する部分を読んでから講義に臨めばより効果的であるが、受講生には予習よりも、講義の復習を期待する。前回学んだ内容を理解し復習しておくことが次の講義の準備となる。
教科書・参考書	教科書・参考書：特になし。 毎回資料を作成し、Active Academyで配布する。
オフィス・アワー	火曜日の昼休み
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	数学Aも履修することが望ましい

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
日置 英彰			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 化学の立場から医療を考える 歴史的に重要な化学物質を取り上げて、化学物質がどのように医療に貢献してきたか考える。</p> <p>第2回 物質の成り立ち 物質を構成している分子と原子の構造、原子軌道、分子軌道について解説する。</p> <p>第3回 元素と周期表 自然にはどのような元素があるのか、元素の分類と周期表の読み方について解説する。</p> <p>第4回 イオン イオンとイオン結合の原理、生体内でのイオンの役割について解説する。</p> <p>第5回 共有結合化合物と有機分子 生体を構成している物質のほとんどは有機分子である。有機分子の結合様式、特異な形、一般的な性質について解説する。</p> <p>第6回 水の性質と物質の状態変化 ヒトの体の半分以上を占める水の性質と浸透や物質の三態（気体、液体、固体）について解説する。</p> <p>第7回 酸と塩基 酸、塩基、緩衝液について解説する。</p> <p>第8回 酸化と還元 物質の酸化と還元、生体内での酸化還元反応について解説する。</p>
科目の目的	地球上に生きるすべての生命を持つものを物質から見れば、巨視的に見えるものから究極を突き詰めれば見えないものは原子や分子の世界まで行きつくことになる。本科目では、物質の科学であると言われる化学について、物質についての基本的な事項を高校化学の基礎にさかのぼり学び、専門課程の理解のための基礎的知識を身につけることを目的とする。 [知識・理解]
到達目標	専門課程で学習する内容を理解するために、化学分野の基礎的知識を習得する。
関連科目	生化学
成績評価方法・基準	試験（80%）、毎講義ごとのリアクションペーパーの提出（20%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習は必要ないが、毎回の講義の理解度を確認するために、各講義ごとに出題されるチェックテストを活用して復習してください。準備学習時間の目安：1時間
教科書・参考書	教科書：看護系で役立つ化学の基本 有本淳一・西沢いづみ著 化学同人 参考書：特に指定なし
オフィス・アワー	講義前後の時間
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特にありません。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員			
日置 英彰			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 病気と闘う化学物質 くすりは体の中でどのように作用するのか概説しながら、医療と化学がどのように関わっているのか考える。</p> <p>第2回 生体内ではたらく有機化合物 ホルモンや神経伝達物質をはじめ多くの有機化合物が生命活動を維持する上で重要な役割を果たしている。これら有機化合物の性質を官能基別に解説する。</p> <p>第3回 生体高分子 糖、タンパク質、核酸の化学構造とその性質について解説する。</p> <p>第4回 合成高分子 医療機器には多くの高分子素材が使われている。各種合成高分子の性質と医療機器への応用について解説する。</p> <p>第5回 化学反応の速度 化学反応の速度の測定方法、速度に影響を与える要因について解説する。</p> <p>第6回 触媒と酵素 生体内の化学反応は酵素が触媒している。化学反応における触媒の役割、酵素の構造と触媒作用について解説する。</p> <p>第7回 化学分析 化学分析の原理を学ぶ。医学で利用されている分析法についても触れる。</p> <p>第8回 放射線と放射能 放射性崩壊と半減期、医療における放射性同位体の利用について解説する。</p>
科目の目的	医療と化学の関係は深い。生命活動自身が秩序だった化学反応であり、医薬品、医用材料、臨床検査薬等を扱うには化学的な見方・考え方は重要である。本講義ではその基本的知識を習得する。 [知識・理解]
到達目標	生体関連物質、医薬品、医用材料など医療に密接に関係している化学物質の性質や反応を理解する。
関連科目	生化学
成績評価方法・基準	試験（80%）、毎講義ごとのリアクションペーパーの提出（20%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習は必要ないが、毎回の講義の理解度を確認するために、各講義ごとに出题されるチェックテストを活用して復習してください。準備学習時間の目安：1時間
教科書・参考書	教科書：看護系で役立つ化学の基本 有本淳一・西沢いづみ著 化学同人 参考書：特になし
オフィス・アワー	講義前後の時間
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特にありません。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
佐藤 求			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 物理量の次元と単位 補助単位、組立単位、同次元の単位の変換。</p> <p>2 静止系 力の釣り合い、モーメントの釣り合い、バネの力。</p> <p>3 運動 瞬間の速度、加速度。等速直線運動、等加速度運動。</p> <p>4 運動方程式 1 力学の問題の標準的な手続き。</p> <p>5 運動方程式 2 坂道、バネなどの典型問題。</p> <p>6 仕事とエネルギー 位置エネルギー、運動エネルギー、弾性エネルギー。エネルギー保存則。</p> <p>7 円運動 等速円運動。</p> <p>8 バネと単振動 単振動。</p>
科目の目的	高等学校で物理を履修していない学生を想定し、物理の基礎を身につける。 高校物理を履修済みの学生にとっても新たな発見があるよう、別の視点の紹介も行う。 [知識・理解]、[思考・判断]
到達目標	物理学の基礎的な概念を知り、標準的なアプローチを身につけ、物理現象を定量的・定性的に取り扱えるようになる。 分野は概ね初等力学。
関連科目	物理学B、運動学、物理療法学
成績評価方法・基準	定期試験(100%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	高校物理教科書や参考書を読んでから講義に臨めばより効果的だが、受講生には予習よりも講義の復習を期待する。前回分の演習問題を解いておくこと。 30分～1時間程度（定期試験前の復習は別
教科書・参考書	教科書：自作テキスト 参考書：新しい高校物理の教科書（現代人のための高校理科 講談社ブルーバックス）山本 明，左巻 健男
オフィス・アワー	講義の前後、講義日の昼休み。4号館まで来るならいつでも。
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
佐藤 求			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 熱現象 1 熱と温度、比熱</p> <p>2 熱現象 2 気体の状態方程式、仕事と熱</p> <p>3 熱現象 3 気体分子運動論</p> <p>4 波動 1 回折、屈折、波の式、干渉</p> <p>5 波動 2 ドップラー効果</p> <p>6 電気の基礎 1 抵抗回路の基礎、電位の概念</p> <p>7 電気の基礎 2 キルヒホッフの法則、電力</p> <p>8 電磁波・放射線 電磁波と各種核崩壊</p>
科目の目的	高等学校で物理を履修していない学生を想定し、物理の基礎を身につける。 物理学Aに続き熱と波動、電気の基礎を学ぶ。 [知識・理解]、[思考・判断]
到達目標	物理学の基礎的な概念を知り、標準的なアプローチを身につけ、物理現象を定量的・定性的に取り扱えるようになる。
関連科目	物理学A、運動学、物理療法学
成績評価方法・基準	定期試験(100%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	高校物理教科書や参考書を読んでから講義に臨めばより効果的だが、受講生には予習よりも講義の復習を期待する。前回分のプリントの演習問題を解いておくこと。 30分～1時間程度(定期試験前の復習は別)
教科書・参考書	教科書：自作テキスト 参考書：新しい高校物理の教科書 一現代人のための高校理科 講談社ブルーバックス) 山本 明, 左巻 健男
オフィス・アワー	講義の前後、講義日の昼休み。4号館まで来るならいつでも。
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
山本 三穂			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 Introduction 授業の説明、テキスト概説</p> <p>第2回 Chapter 1 Animals in Zoos(1) For: The world needs zoos 動物園の存在について賛成意見を読む。</p> <p>第3回 Chapter 1 Animals in Zoos(2) Against: Replace zoos with something better 動物園の存在について反対意見を読む、自分の見解をまとめる。</p> <p>第4回 Chapter 2 Security Cameras(1) For: Safety first 監視カメラについて賛成意見を読む。</p> <p>第5回 Chapter 2 Security Cameras(2) Against: Whatever happened to privacy? 監視カメラについて反対意見を読む、自分の見解をまとめる</p> <p>第6回 Chapter 3 Can Customer Service Go Too Far?(1) For: I enjoy the personal touch 顧客サービスについて賛成意見を読む</p> <p>第7回 Chapter 3 Can Customer Service Go Too Far?(2) Against: Give me some room to breathe 顧客サービスについて反対意見を読む、自分の見解をまとめる。</p> <p>第8回 Chapter 4 Digital Manuals, Catalogs, and Textbooks(1) For: Convenience at one's fingertips デジタル社会について賛成意見を読む。</p> <p>第9回 Chapter 4 Digital Manuals, Catalogs, and Textbooks(2) Against: Convenient until they're not デジタル社会について反対意見を読む、自分の見解をまとめる。</p> <p>第10回 Chapter 5 Womenomics(1) For: Waste not, want not 「ウーマノミクス」について賛成意見を読む。</p> <p>第11回 Chapter 5 Womenomics(2) Against: False hopes 「ウーマノミクス」について反対意見を読む、自分の見解をまとめる。</p> <p>第12回 Chapter 6 Extreme Sports(1) For: Reach for the stars 過激なスポーツについて賛成意見を読む。</p> <p>第13回 Chapter 6 Extreme Sports(2) Against: Keep your feet on the ground 過激なスポーツについて反対意見を読む、自分の見解をまとめる。</p> <p>第14回 Chapter 7 Casinos and Gambling(1) For: Casinos are a sure bet カジノについて賛成意見を読む。</p> <p>第15回 Chapter 7 Casinos and Gambling(2) Against: Don't gamble with the future カジノについて反対意見を読む、自分の見解をまとめる。</p>
科目の目的	専門分野の英語に取り組むためのリーディング力をつける。様々なトピックの英文に触れ、文化や慣習、多様な人間模様にも注目し、理解を深めることを目指す。技能・表現。
到達目標	テキストや各自の力と興味に合わせた本を読むことを通じて、多くの英文に接し、構文を正しく理解し、英文の内容を理解することができる。多分野に渡るトピックの賛否両論を英語で読み、自分の意見を考えていくことにより、社会及び英語に対する知識、関心を広げていくことができる。
関連科目	医療英語会話、医療英語リーディング、英語会話、英語アカデミックリーディング・ライティング
成績評価方法・基準	前期末試験（60％） 課題提出（30％） 多読（10％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習：次回に学習する範囲の英文を読んでくる。単語を調べ、英文の内容を把握する。分からない箇所を明確にする。約1時間。 復習：予習の段階で分かっていた部分を確実に理解する。学習した内容、構文、表現を見直す。約30分。
教科書・参考書	教科書：Taking Sides: Opinions For and Against『白熱議論：どちらに賛成？』、Mark Jewel著（朝日出版社）、2017年
オフィス・アワー	授業の前後、講義日の昼休み（非常勤講師室）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	用例の多い英和辞典を持参すること。紙媒体のものでも電子でもよいが、携帯電話の辞書機能は不可とする。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
Renee Sawazaki			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 Introductions Self and partner introductions. Name game. Syllabus in English. Class rules and procedures. Oral Production Journal explanation.</p> <p>2 Medical Vocabulary Body parts: External and internal. Pronunciation: Vowels</p> <p>3 Coffee Break 1 & Essay 1 Family Tree. Beverages. Pronunciation: Consonants</p> <p>4 Unit 1: Meeting Patients Part 1 Expressions and vocabulary. Dialog. Listening comprehension. Pronunciation: Syllables</p> <p>5 Unit 1: Meeting Patients Part 2 Pair work 1 and 2. Medical Knowledge. Pronunciation: Word stress</p> <p>6 Unit 2: Taking a Medical History Part 1 Unit 1 Test. Expressions and vocabulary. Dialog. Listening comprehension. Pronunciation: Chunking</p> <p>7 Unit 2: Taking a Medical History Part 2 Pair work 1 and 2. Medical Knowledge. Pronunciation: Jazz chants 1. Oral Production Journal mid-term check.</p> <p>8 Unit 3: Assessing Patients Symptoms Part 1 Unit 2 Test. Expressions and vocabulary. Dialog. Listening comprehension. Pronunciation: Jazz chants 2</p> <p>9 Unit 3: Assessing Patients Symptoms Part 2 Pair work 1 and 2. Medical Knowledge. Pronunciation: Jazz chants 3</p> <p>10 Unit 4: Taking Vital Signs Part 1 Unit 3 Test Expressions and vocabulary. Dialog. Listening comprehension. Pronunciation: Jazz chants 4</p> <p>11 Unit 4: Taking Vital Signs Part 2 Pair work 1 and 2. Medical Knowledge. Pronunciation: Jazz chants 5</p> <p>12 Coffee Break 3 & Essay 3 Part 1 Unit 4 Test. Appointments vocabulary and expression practice. Organic Food essay listening.</p> <p>13 Coffee Break 3 & Essay 3 Part 2 Appointments skit. Organic Food essay speaking practice.</p> <p>14 Skit preparation Part 1 Example skits. Group and topic selection.</p> <p>15 Skit preparation Part 2 Skit writing and practice. Oral Production Journal due.</p>
科目の目的	To build a foundation in spoken medical English that can be used in professional situations. 【技能・表現】
到達目標	To gain skills and confidence in speaking everyday English through enjoyable activities with classmates. We will focus on rhythm so listening and speaking English becomes a natural ability. Practice general medical English vocabulary, expressions, conversations and essays.
関連科目	All English courses: 英語リーディング、医療英語リーディング、英語会話、アカデミックリーディング・ライティング
成績評価方法・基準	Oral production journal (40%) Unit tests (40%) Final project (20%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	About 30 minutes of pronunciation and speaking practice. About 30 minutes of vocabulary and expressions study.
教科書・参考書	Caring for People, Mayuzumi et al., Cengage Learning (2014) ISBN: 978-4-86312-256-7 Teacher prepared handouts and online listening practice.
オフィス・アワー	During lunchtime of class day.
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	Practice and prepare well for each lesson. Pay attention and practice well during class.

講義科目名称：医療英語リーディング

授業コード：2P027

英文科目名称：Medical English Reading

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
山本 三穂			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：英語会話

授業コード：2P028

英文科目名称：General English Conversation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	選択
担当教員			
Joseph Boland			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：英語アカデミックリーディング・ライティング 授業コード：2P029

英文科目名称：Academic Reading and Writing in English

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
担当教員			
杉田 雅子			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
深町 悦子			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 中国語とは？ 中国語の発音 発音、漢字、声調</p> <p>2 中国語の発音のきまり 単母音、複合母音</p> <p>3 子音の発音 子音と声調</p> <p>4 発音の復習 音節表の朗読</p> <p>5 第1課 簡単な日常会話 あいさつの表現</p> <p>6 第2課 お名前は何ですか 自分の名前の発音を覚える</p> <p>7 第3課 これは何ですか 本文と練習問題</p> <p>8 第4課 どの国の人ですか 本文と練習問題</p> <p>9 第5課 これは誰の鉛筆ですか、第6課 今日は何曜日ですか 本文と練習問題</p> <p>10 第7課 今日は「何日ですか」、第8課 今何時ですか 本文と練習問題</p> <p>11 第9課 いくつですか、第10課 いくらですか 本文と練習問題</p> <p>12 第11課 何を買うつもりですか、第12課 何人家族ですか 本文と練習問題</p> <p>13 第13課 中国語教室はどこですか、第14課 図書館に中国語の本はありますか 本文と練習問題</p> <p>14 第15課 趣味はなんですか、第16課 中国語が話せますか 本文と練習問題</p> <p>15 第1課から第16課までの復習 総合復習</p>
科目の目的	現代のグローバル化の社会の中で、一国際人として、多言語ができる人材を育成する。[技能・表現]
到達目標	日常生活及び仕事の中で、簡単な会話ができること。
関連科目	特になし
成績評価方法・基準	期末に筆記試験を行う。基準は筆記試験が80%、授業内にレポート及び感想文の提出が20%。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業前の予習と授業後の復習をすること。1時限ごとに30分ぐらい必要である。
教科書・参考書	教科書：じっくり学ぶ中国語（金星堂） 参考書：なし
オフィス・アワー	講義の前後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	教科書の購入が必要である

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
青木 順			

授業形態	演習
授業計画	<p>第一回 ハングルの読み方 基本母音 朝鮮半島、ソウル市などを簡単に紹介し、ハングルの由来、構造を簡単に説明。基本母音十個の読み方、基本母音を含んだ単語、挨拶言葉等を学習する。</p> <p>第二回 ハングルの読み方 基本子音 基本子音四個の読み方、その基本子音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。文化としての伝統料理を紹介する。</p> <p>第三回 ハングルの読み方 基本子音 基本子音四個の読み方、その基本子音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。</p> <p>第四回 ハングルの読み方 激音（濃音と比較しながら） 濃音と比較しながら激音の読み方、激音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。文化としての伝統茶を紹介する。</p> <p>第五回 ハングルの読み方 濃音（激音と比較しながら）、合成母音 激音と比較しながら濃音の読み方、合成母音の読み方、それらを含んだ単語、挨拶言葉を学習する。</p> <p>第六回 ハングルの読み方 パッチム パッチムの読み方、パッチムを含んだ単語、挨拶言葉を学習する。文化としての食事のマナー、1歳の誕生日を紹介する。</p> <p>第七回 前半のまとめ 後半の文法の学習につながるように、前半に学んだハングルの読みをまとめ、復習する。</p> <p>第八回 「私は青木順です」① サンパッチム、連音の説明、練習を行う。</p> <p>第九回 「私は青木順です」② 「は」「です」「～と申します」という文法の学習、関連会話文の読み、訳を行う。文化としての伝統家屋、伝統舞踊を紹介する。</p> <p>第十回 「私は青木順です」のまとめと「何人家族ですか？」① 韓国語での自己紹介を一人一人行う。関連単語、「ます」「ますか」等の文法の学習と練習を行う。文化としての伝統的結婚式、楽器等を紹介する。</p> <p>第十一回 「何人家族ですか」② 「お～になります」「が」「と」などの文法の学習と練習を行う。</p> <p>第十二回 「何人家族ですか」③ 固有数字、関連会話文の読み、訳を行う。文化としての伝統遊びを紹介する。</p> <p>第十三回 「すみません」① 関連単語、「～してください」、意志を含んだ「ます」等の文法の学習と練習を行う。</p> <p>第十四回 「すみません」② 「いる（いない）」「ある（ない）」の説明と練習。固有数字を使う助数詞、関連会話文の読み、訳を行う。文化としての伝統刺繍を紹介する。</p> <p>第十五回 まとめ 後半の文法を中心にまとめ、試験問題の説明を行う。</p>
科目の目的	基礎的なコリア語を学ぶと同時に、韓国社会や文化への理解も深める。（技能・表現）
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ハングル文字を正確に読み書きできるようになる。 ・正確な発音をマスターする。 ・挨拶をはじめ、簡単な日常会話を身につける。
関連科目	特になし。
成績評価方法・基準	課題への取り組み（40%）・期末テスト（60%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業で学習した内容はその都度復習しておくこと。外国語の学習は反復・継続することが何より大切なので、毎日10分でもよいので、積極的に取り組むこと。
教科書・参考書	講師作成教材使用予定（コピー）
オフィス・アワー	コリア語の授業のある日12:30～12:50非常勤教員室
国家試験出題基準	特になし。

履修条件・履修上の注意	講師作成の教材を使用する。 配布期間：前回の授業翌日から当該日まで。 持参方法：各自印刷して授業に持参すること（課題も含まれているため、印刷必須）。
-------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
高 裕輔			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 ガイダンス・ドイツ語のアルファベット・ドイツ語の表現① ドイツ語学習のための導入、挨拶表現</p> <p>第2回 ドイツ語の語と発音①、文法①、ドイツ語の表現② ドイツ語の発音の特徴、人称・動詞の現在人称変化、挨拶表現</p> <p>第3回 ドイツ語の語と発音②、文法②、ドイツ語の表現③ 注意すべき発音、ドイツ語の文の作り方（平叙文・疑問文）、自己紹介</p> <p>第4回 ドイツ語の語と発音③、文法③、ドイツ語の表現④ 注意すべき発音、ドイツ語の文についての演習、国や職業を表す語</p> <p>第5回 文法④、ドイツ語の表現⑤ 名詞の性別と冠詞、ドイツ語の数詞</p> <p>第6回 小テスト①、ドイツ語の表現⑥ 第1回～第5回の内容の小テスト</p> <p>第7回 小テスト①解説、復習 小テスト返却・解説、これまでの内容の再確認</p> <p>第8回 文法⑥、ドイツ語の表現⑦ 格・冠詞の格変化、数詞・時間表現</p> <p>第9回 文法⑦、ドイツ語の表現⑧ 格・冠詞の格変化・人称代名詞の格変化、曜日や月などの表現</p> <p>第10回 文法⑧、ドイツ語の表現⑨ 不規則に変化する動詞・動詞の命令形、会話表現</p> <p>第11回 小テスト②、ドイツ語の表現⑩ 第7回～第10回の内容の小テスト</p> <p>第12回 小テスト②解説、復習 小テスト返却・解説、これまでの内容の再確認</p> <p>第13回 文法⑨、ドイツ語の表現⑪ 名詞の複数形、会話表現</p> <p>第14回 文法⑩、ドイツ語の表現⑫ 所有冠詞、否定冠詞、会話表現</p> <p>第15回 まとめ、演習</p>
科目の目的	<p>初歩的な文法、発音、会話表現の習得を主目的とします。語学の能力の習得だけではなく、これまで主に学習してきた英語以外の多様な世界に触れること、またドイツ語が使われている世界の文化や風習もまた多様であることを理解することも目的とします。</p> <p>また、本科目は本学ディプロマ・ポリシーにおける「技能・表現」に示された能力向上の一環として行われます。</p>
到達目標	ドイツ語文法の基礎的な知識・短い文の理解・簡単な会話表現の理解・運用。日本語やこれまで学習した英語との違いの認識。
関連科目	「多職種理解と連携」
成績評価方法・基準	期末試験(60%)、小テスト2回(40%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>準備学習として、予習にはそれほど時間や労力を割く必要はありませんが、復習が極めて重要でありより多くを費やしてください(15分程度)。また1度の復習だけでは記憶には定着しづらいため、数回に分けて行うのが良いでしょう(30分×3程度)。</p> <p>①予習として、知らない文法用語や文法事項等をチェックしておき、授業の際に注意を向けられるようにしてください。</p> <p>②復習として、授業の内容を理解できているか確認し、また何が理解できていないかを把握する必要があります。理解の有無や不明確な部分は演習問題や宿題を通じて確認してください。また授業で使用した語や文あるいは表現は、できるだけ次の授業までに覚えるようにしてください。</p>
教科書・参考書	教科書：クロイツング・ネオ(Kreuzung Neo) 朝日出版社 ISBN:978-4255253459
オフィス・アワー	主に授業の前後
国家試験出題基準	

履修条件・履修上の注意	学習のため小さいものでよいので独和辞典を用意してください。授業中には辞書は使用しません。授業へは積極的な参加が好ましいです。
-------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
鳥越慎太郎			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション ポルトガル語について ポルトガル語の読み方</p> <p>第2回 自己紹介ができる 自己紹介の表現 国籍の表現 動詞ser (be動詞) 疑問文と否定文</p> <p>第3回 好きなものを伝えることができる 趣味の表現 色の表現 動詞gostar</p> <p>第4回 家族を紹介することができる 家族の表現 動詞の現在形(規則・不規則)</p> <p>第5回 予定の表現や約束の表現ができる 誘いかけの表現 曜日の表現 動詞ir</p> <p>第6回 今おこなっていることの表現、天気 of 表現ができる 進行の表現 天候の表現 動詞estar</p> <p>第7回 週末にしたことを表現できる 過去の表現 動詞の完了過去形(規則・不規則)</p> <p>第8回 過去の習慣の表現ができる 子どもの頃の習慣の表現 動詞の未完了過去形</p> <p>第9回 「もし～だったら」と誘う表現ができる 「もし～だったら」、「～する時は」の表現 誘う表現 動詞の接続法未来形</p> <p>第10回 指示や命令の表現ができる 道案内の表現 指示やお願いの表現 動詞の命令法</p> <p>第11回 願望や要求の表現ができる したいことを伝える表現 してほしいことを伝える表現 動詞querer 目的語の代名詞</p> <p>第12回 許可の表現、お願いの表現、時刻の表現ができる 許可の表現 動詞poder 時刻の表現・時点の表現</p> <p>第13回 丁寧なお願いや許可の表現 丁寧の表現 動詞の過去未来形</p> <p>第14回 比較の表現ができる 比較の表現</p> <p>第15回 別れや感謝の表現ができる 別れや感謝の表現</p>
科目の目的	<p>【技能・表現】 ポルトガル語は主にブラジルで話される言語で、1万人以上のブラジル系住民が生活する群馬県内でも接する機会の多い言語です。群馬県内(特に東毛地区)において地域に関わる仕事(例えば、公務員や教員、医療関係など)を希望している学生にはポルトガル語の習得をお勧めします。</p> <p>ポルトガル語は英語に近い構造のヨーロッパ言語で、英文法や語彙の知識が応用できる項目もあり、一方で英語の理解にも役立ちます。</p> <p>本授業の目標はポルトガル語の入門にとどまりますが、初級、中級へと学習を進めるためのきっかけとなると</p>

	同時に、「英語以外のヨーロッパ言語」に関心を持っていただくことも目指します。
到達目標	<p>本授業では欧州言語共通参照枠(CEFR)のA1レベルを習熟目標とし、ポルトガル語の基本中の基本となる以下の基礎文法と基礎的なコミュニケーション表現を習得することを目指します。</p> <p>(1)ポルトガル語を読める (2)名詞や形容詞の性数の考え方が理解できる (3)挨拶など基礎的な表現ができる (4)基礎的な語彙を使うことができる (5)動詞の活用ができる</p>
関連科目	特になし
成績評価方法・基準	期末試験(80%)、授業5回毎に行う小テスト(20%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	毎回先入観なく新しい内容を学習していただきたいため、予習は不要とします。ただし、復習は授業直後と授業直前に必ず毎回30分ほど行ってください。
教科書・参考書	<p>(教科書) 市之瀬敦他. 『Boa Sorte!-会話で学ぶポルトガル語-』. 朝日出版社.</p> <p>(参考書) 黒澤直俊他(編). 『デイリー日葡英・葡日英辞典』. 三省堂. 市之瀬敦他(編). 『プログレッシブポルトガル語辞典』. 小学館.</p> <p>その他、ウェブページでの資料配布や、自習用アプリの紹介などいたします。</p>
オフィス・アワー	授業後の時間
国家試験出題基準	特になし
履修条件・履修上の注意	<p>5回以上の欠席がある場合は期末試験を受けられません。 また、特別な事情がない場合の30分以上の遅刻は欠席と見なします。 就職活動や特別な事情による欠席は考慮いたします。</p> <p>大学生として相応な英語力と意欲、情熱があることが望ましいです。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
西谷 泉			

授業形態	演習
授業計画	<p>第1回 情報と検索の活用 情報の意義と情報収集の方法、具体的な活用について学ぶ テキスト：(A:第1章)情報と検索の活用 参照</p> <p>第2回 インターネットの仕組み インターネットの仕組みと情報活用について学ぶ テキスト：(A:第13章)インターネットの仕組み、 参考(B:第3章)インターネットの技術</p> <p>第3回 情報セキュリティ 情報セキュリティの基本的な考え方を学ぶ テキスト (A:第12章)情報セキュリティ 参考(B:第5章)情報セキュリティ</p> <p>第4回 情報発信の方法とモラル 情報発信、ICTコミュニケーションの特徴と情報モラルについて学ぶ テキスト (A:第14章)情報発信の方法とモラル 参考(B:第6章)情報倫理 参照</p> <p>第5回 文書作成の基本 文書作成の基本、文章作成の基本事項を学ぶ テキスト (A:第2章)文書作成の基本</p> <p>第6回 レポートの作成 (1) ～基本形式とワープロの基礎～ レポートの作成について MS-Wordを用いて、基本形式を学ぶ テキスト(A:第3章)レポートの作成 (1) ～基本形式とワープロの基礎～</p> <p>第7回 レポートの作成 (2) ～表作成とデータ管理～ レポート作成における表作成、データ管理について基本事項を学ぶ テキスト (A:第4章)レポートの作成 (2) ～表作成とデータ管理～ 参照</p> <p>第8回 レポートの作成 (3) ～画像の挿入と文章校正～ レポート作成における画像挿入、文書校正について基本事項を学ぶ テキスト (A:第5章)レポートの作成 (3) ～画像の挿入と文章校正～ 参照</p> <p>第9回 プレゼンテーション (1) ～スライド作成の基本～ プレゼンテーションの基本的な概念と具体的方法を学ぶ テキスト (A:第10章)プレゼンテーション (1) ～スライド作成の基本～ 参照</p> <p>第10回 プレゼンテーション (2) ～効果的なプレゼンとは～ 効果的なプレゼンテーションを行うための基本事項について学ぶ テキスト (A:11章)プレゼンテーション (2) ～効果的なプレゼンとは～ 参照</p> <p>第11回 表計算 (1) ～表計算の基本～ スプレッドシートによるデータ処理の基本的概念をMS-Excelを用いて学ぶ テキスト (A:第6章)表計算 (1) ～表計算の基本～ 参照</p> <p>第12回 表計算 (2) ～絶対参照とIF～ スプレッドシートによるセル参照の基本的概念をMS-Excelを用いて学ぶ テキスト (A:第7章)表計算 (2) ～絶対参照とIF～ 参照</p> <p>第13回 表計算 (3) ～グラフ作成と分析～ スプレッドシートによるグラフ作成の基本的概念をMS-Excelを用いて学ぶ テキスト (A:第8章)表計算 (3) ～グラフ作成と分析～</p> <p>第14回 表計算 (4) ～抽出と並べ替え～ スプレッドシートによるデータ処理の基本的概念をMS-Excelを用いて学ぶ テキスト (A:第9章)表計算 (4) ～抽出と並べ替え～ 参照</p> <p>第15回 情報を集め、まとめる 情報収集と情報発信、情報をまとめることの意義について学ぶ テキスト (A:第15章)情報を集め、まとめる 参照</p>
科目の目的	現代社会には情報があふれており、私たちはそのかなりの量を情報通信機器を使って得る。大学での学習も情報通信機器を扱うスキルによって影響を受けることは確実である。本科目では大学での学びを充実させるために、情報通信機器の基本的な操作を学ぶ。具体的には、Wordを使用した文書作成・編集の基本技術、Excelの基本、計算機能、ビジュアルな文書作成、インターネットの活用、ワークシートの活用などについて学び、合計、平均の計算、関数の活用、最大・最小、グラフ作成、データベースの基本事項、データのソート、検索、集計、Power Point、プレゼンテーションなどについての演習を行う。
到達目標	パーソナルコンピュータや、インターネットを通して情報を活用する能力を身につける。また、情報の意味、伝達の意義について学習する。 個別目標： 1. 情報の概念について説明できる。 2. パーソナル・コンピュータのの基本操作が行える。 3. ワードプロセッサ、スプレッドシート、プレゼンテーション・アプリケーションを用いて情報表現、情報操作が行える。

関連科目	情報リテラシー
成績評価方法・基準	演習課題（授業毎の演習課題60%、Eラーニング・ミニテスト40%）100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	この授業では、インターネット上のクラウド型学習コンテンツサービスを利用して、授業、自己学習、関連項目の学習、ミニテストを演習を通して実施します。 関連する項目を事前学習で理解し、併せて関連サイトを自己学習することが望まれます。
教科書・参考書	教科書：日経パソコンEduクラウド型教育コンテンツ提供サービス：日経BP出版（有料ライセンスを使用します） (A)基本から分かる情報リテラシー 日経BP出版（上記ライセンスに書籍が含まれます） (B)最新「情報」ハンドブック 日経BP出版（上記ライセンスにPDF教材が含まれます）
オフィス・アワー	未定
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	大学から恵与されるWindowsタブレットを持参してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員			
西谷 泉			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 OSとアプリケーションソフト ハードウェアとソフトウェア パソコンEdu. (B) 第1章 OSとアプリケーションソフト 1. OSとは何か 2. アプリケーションソフト</p> <p>2 コンピュータの仕組み (1) コンピューターシステムの基本的なしくみについて学ぶ パソコンEdu. (B) 第2章 コンピューターの仕組み 1. コンピューターの歴史 2. コンピューターの処理の基本 3. 文字コードとフォント</p> <p>3 コンピュータの仕組み (2) コンピューターシステムの基本的なしくみについて学ぶ パソコンEdu. (B) 第2章 コンピューターの仕組み 4. パソコンの仕組み 5. タブレットとスマートフォン 6. 周辺機器と光ディスク</p> <p>4 インターネットの技術 (1) インターネットの仕組みについて技術的側面から学ぶ パソコンEdu. (B) 第3章 インターネットの技術 1. LAN/無線LAN 2. インターネットの仕組み 3. Webページとブラウザ</p> <p>5 インターネットの技術 (2) インターネットの仕組みについて技術的側面から学ぶ パソコンEdu. (B) 第3章 インターネットの技術 4. 電子メールの仕組み 5. ネットサービスとは何か</p> <p>6 マルチメディア 様々なマルチメディアについて学ぶ パソコンEdu. (B) 第4章 マルチメディア 1. マルチメディアと音声データ 2. 画像データと動画データ 3. ファイル圧縮</p> <p>7 情報セキュリティ (1) 情報を扱う上で重要な情報セキュリティについてその基本的概念を学ぶ パソコンEdu. (B) 第5章 情報セキュリティ 1. コンピューターウイルスの正体 2. ネット詐欺から身を守る法</p> <p>8 情報セキュリティ (2) 情報を扱う上で重要な情報セキュリティについてその基本的概念を学ぶ パソコンEdu. (B) 第5章 情報セキュリティ 3. 情報漏洩と暗号化 4. パスワードの正しい管理法 パソコンEdu. ネットの脅威と対策 強いパスワードの現実解</p> <p>9 情報倫理 情報を扱う上で重要な情報倫理についてその基本的概念を学ぶ パソコンEdu. (B) 第6章 情報倫理 1. 情報社会の権利と法律</p> <p>10 著作権と個人情報保護 情報を扱う上で重要な著作権についてその基本的概念を学ぶ パソコンEdu. (B) 第6章 情報倫理 2. 著作権の基礎と著作物の活用 パソコンEdu. 著作権の基礎と著作物の活用 参考</p> <p>11 ネットコミュニケーション インターネットに代表されるネットワークコミュニケーションについて学ぶ パソコンEdu. (B) 第6章 情報倫理 3. ネットコミュニケーションの作法 パソコンEdu. パソコン法律相談所、メールの作法 参考</p> <p>12 情報と社会 身の回りのコンピューターシステムを通して情報と社会について学ぶ パソコンEdu. (B) 第7章 情報と社会 1. 身の回りのコンピューターシステム 2. 電子マネー 3. 情報デザインの作法 参考</p> <p>13 SNSによる情報収集と情報発信 ソーシャルネットワーキングサービスについて情報収集と発信について学ぶ パソコンEdu. ネットサービス活用術 SNS (ソーシャルネットワーキングサービス)</p> <p>14 情報収集と保管・管理 クラウドサービスによる情報保管と管理について学ぶ パソコンEdu. ネットサービス活用術 Web/クラウドサービス 参考</p> <p>15 情報リテラシーのまとめ 情報リテラシーのまとめ この科目を通して、学んだこと習得した知識、技術を確認しよう。</p>

科目の目的	情報通信技術の発展に伴い、その技術に通じることは現代社会で生きていくためには不可欠な要素となっている。情報通信技術は便利で欠かせないものではあるが、その使い方を一歩誤ると、他者を傷つけたり、犯罪となったり、あるいは犯罪に巻き込まれたりすることになる。大きな社会問題に発展するケースも少なくない。本科目では、情報通信機器にあふれた現代社会を生きる一員として、情報通信技術を使う際の基本的なルールやモラルについて学ぶ。また学生各自が自らの学習や研究、将来医療専門職として仕事に利用するための情報セキュリティの考え方を学ぶ。
到達目標	情報と意思決定の関係やメディアリテラシーの重要性を理解する。 個別目標： 1. さまざまな情報メディアを通して情報を活用する能力を身につける。 2. マルチメディアによる情報表現の手法を理解し、基本的ルールやモラルを説明できる。 3. 情報表現における倫理を理解し、情報セキュリティを実践できる。
関連科目	情報処理
成績評価方法・基準	演習課題（授業毎の演習課題60%、Eラーニング・ミニテスト40%）100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	この授業では、インターネット上のクラウド型学習コンテンツサービスを利用して、授業、自己学習、関連項目の学習、ミニテストを演習を通して実施します。 関連する項目を事前学習で理解し、併せて関連サイトを自己学習することが望まれます。
教科書・参考書	教科書：日経パソコンEduクラウド型教育コンテンツ提供サービス：日経BP出版（有料ライセンスを使用します） (A) 基本から分かる情報リテラシー 日経BP出版（上記ライセンスに書籍が含まれます） (B) 最新「情報」ハンドブック 日経BP出版（上記ライセンスにPDF教材が含まれます） * 前期「情報処理」で使用した教科書ですので、再度購入する必要はありません。
オフィス・アワー	未定
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	大学から恵与されるWindowsタブレットを持参してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員			
土屋 仁			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 ガイダンス（土屋） 授業進行の説明</p> <p>第2回 ルール解説（6路盤）（青木） 基本を理解する。：囲碁の5つのルールに関する説明、石を取る練習</p> <p>第3回 ルールの復習、終局の説明（6路盤）（青木） 工夫をする重要性を学ぶ。：6路盤を用いて実践対局、囲碁の終局の解説</p> <p>第4回 9路対局と終局の理解（9路盤）（青木） 状況判断ができる。：9路盤模範囲碁の解説と実践</p> <p>第5回 9路対局と石を取るための初歩的技術（青木） 自分で決断できる。：9路盤模範囲碁の解説と実践</p> <p>第6回 問題演習①（19路盤）（青木） 布石の考え方を身に着ける。：ルールの理解と確認</p> <p>第7回 模範碁の解説と対局①（19路盤）（青木） 実行した結果に責任を持つ。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第8回 模範碁の解説と対局②（19路盤）（青木） 見えていることが見えていないことを知る。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第9回 模範碁の解説と対局③（19路盤）（青木） 欲張ると破たんすることを知る。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第10回 模範碁の解説と対局④（19路盤）（青木） 正しい大局観を持てるようになる。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第11回 9子局の解説、連碁対局（19路盤）（青木） 局所的判断と大局観が両立できる。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第12回 模範碁の解説と対局⑤ ペア碁対局（19路盤）（青木） 先を読み力できる。：19路盤模範囲碁の解説とペア碁の実践対局</p> <p>第13回 模範碁の解説と対局⑥（19路盤）（青木） 考える習慣がつく。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第14回 問題演習① 解説、囲碁の世界（青木） 頑張ってもできない経験ができる。：石の取り方、二眼生きの解説</p> <p>第15回 代表者対局（まとめ）（19路盤）（土屋） すぐすべきこと、後でも可能なことの判断力を磨く。：19路盤で学生代表ペア2組、と9子局での対局</p>
科目の目的	<p>囲碁のルールを習得し、19路盤で対局ができるようになること。囲碁は日本の伝統文化だけではなく、国際的にも広く普及し親しまれているゲームである。このゲームに勝つには大局観が必要であり、この大局観を実践を通じて判断力、分析力、集中力を養うことができる。この大局観は、医療現場において、必要欠くべからざるものである。特に当直や、日直等、放射線業務を一人でこなす場合には、自己判断でトリアージ（検査における優先順位）を付け、業務を行わなければならない。このトリアージを実践に置き換えて学ぶことができる。</p>
到達目標	「考える力」、「判断力」を磨き、先を読む力を習得する。
関連科目	放射線救急医学
成績評価方法・基準	レポート（60%）、実技評価（40%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> ・各回の授業内容について復習を行い理解しておくこと。 ・準備学習時間の目安は20分。
教科書・参考書	<p>教科書：光文社新書「東大教養囲碁講座」</p> <p>参考書：日本棋院「実践囲碁総合演習」</p>
オフィス・アワー	随時（昼休みが良い）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
杉田 雅子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 科目の説明、大学生の学習・生活、アカデミック・スキルとスチューデント・スキル 科目の目的・目標・進め方の説明、高校生までの学習・生活と大学生の学習・生活の違い、アカデミック・スキル、スチューデント・スキルとは (杉田)</p> <p>第2回 調べる 情報を探す (杉田)</p> <p>第3回 インターネットリテラシー インターネット利用のルールとマナー1 (星野)</p> <p>第4回 インターネットリテラシー インターネット利用のルールとマナー2 (星野)</p> <p>第5回 聞く・読む・考える 授業の受け方、本や資料の読み方、考える力をつけるには (杉田)</p> <p>第6回 書く：レポートの書き方1 レポートとは何か レポート作成の手順 (杉田)</p> <p>第7回 書く：レポートの書き方2 論文作法 (杉田)</p> <p>第8回 書く：レポートの書き方3 レポートの形式 (杉田)</p> <p>第9回 書く：レポートを書く レポート作成の実践 (杉田)</p> <p>第10回 自身の課題を見つける、書く：レポートを書く 前回までの授業を踏まえて、自身の学習と生活を検証し、学習、生活両面の自己課題を見出す。 レポート作成の実践。 (杉田)</p> <p>第11回 相手の話を聴く ロールプレイを通して基本的なカウンセリングの技法を体験する。 (榎本)</p> <p>第12回 自分の気持ちや考えを伝える グループワークを通し、自分の感情や意思をわかり易く伝える練習をする。 (榎本)</p> <p>第13回 協力して作業する これまでのワークを通して身につけたスキルを活用し、周囲と協力して課題を達成する (榎本)</p> <p>第14回 書く：レポートを書く レポート作成の実践 (杉田)</p> <p>第15回 書く：レポートを書く レポート作成の実践、提出 (杉田) レポートは後期開始後評価とともに返却する。</p>
科目の目的	<p>大学での学習形態や学問に対する姿勢、大人としての生活態度を認識、理解し、高校生までの学習・生活から大学生の学習・生活に移行することができるように、基本的なスキル、姿勢を学ぶ。【知識・理解】</p> <p>1. 与えられた知識や技術を身に付けていく高校までの学習から、自ら課題を見つけ、それを解決していく大学の学習のためのスキルの習得、姿勢の理解</p> <p>2. 高校までの大人に守られた生活から、責任ある大人としての生活のためのスキルと姿勢の理解</p>
到達目標	<p>1. 大学での学習に必要な学習習慣・学習技術（アカデミック・スキル、情報処理に関するスキル、ルール、マナー）を理解し、授業やレポートで実践できる。</p> <p>2. 責任ある大人としての生活に必要な、基本的な生活習慣を身につけ、大学生活で実践できる。 (スチューデント・スキル、コミュニケーションスキル)</p>
関連科目	全科目
成績評価方法・基準	杉田担当課題（50%）、榎本担当意見文・感想文（30%）、星野担当感想文（20%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	前回授業の重要事項を見直しておくこと。約45分間。
教科書・参考書	なし。プリントを使用。
オフィス・アワー	杉田：授業の前後、昼休み、4号館8階杉田研究室 星野：講義終了後、 榎本：月、水、木、金の昼休み、1号館3階305 1号館学生相談室、4号館の学生相談室
国家試験出題基準	

履修条件・履修上の注意	プリントはActive Academy上で配布するので、各自プリントアウトして、授業に持ってきてください。配布期間は授業の前後1週間。
-------------	---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
中 徹			

授業形態	講義・演習
授業計画	<p>第1回 保健科学総論 担当：木村 保健科学の概要と成り立ちを学ぶ 学ぶ 1. 病と人間 2. 保健科学の基礎としてのヘルスリテラシーのあらまし</p> <p>第2回 保健科学総論 担当：木村 保健科学を具他の事例に即して理解する 1. ヘルスリテラシーの活用 2. 文化とヘルスリテラシー</p> <p>第3回 グループワークへの導入～専門を学ぶということ 担当：中 徹（岡崎） 専門を学ぶことの実践的な意義を知った上で、グループワークの方法論を理解</p> <p>第4回 グループワーク1：理学療法を学ぶ学生が、今すべきことの検討【討議】 担当：中 徹（岡崎・橋口・鳥海） 理学療法士を目指す学生に必要な能力の具体化</p> <p>第5回 グループワーク1：理学療法を学ぶ学生が、今すべきことの検討【討議】 担当：中 徹（岡崎・橋口・鳥海） 具体化した能力を習得するために今すべき（できる）ことの模索</p> <p>第6回 グループワーク1：理学療法を学ぶ学生が、今すべきことの検討【発表】 担当：中 徹（岡崎・橋口・鳥海） グループワーク1のプレゼンテーション</p> <p>第7回 グループワーク2：医療・保健・福祉における理学療法の役割：【ロールプレイ】 担当：中 徹（岡崎・橋口・鳥海） 設定されたテーマに沿ってロールプレイングを行う</p> <p>第8回 グループワーク2：医療・保健・福祉における理学療法の役割：【ロールプレイ】 担当：中 徹（岡崎・橋口・鳥海） 設定されたテーマに沿ってロールプレイングを行う</p> <p>第9回 グループワーク2：医療・保健・福祉における理学療法の役割：【発表】 担当：中 徹（岡崎・橋口・鳥海） ロールプレイングの発表</p> <p>第10回 理学療法士像の探求1：理学療法士の学科教員から話題提供と集団討論 担当：中 徹（高橋・浅田） 理学療法士の経験談からのメッセージを受けて論議する</p> <p>第11回 理学療法士像の探求2：理学療法士の学科教員から話題提供と集団討論 担当：中 徹（鈴木・城下） 理学療法士の経験談からのメッセージを受けて論議する</p> <p>第12回 理学療法士像の探求3：理学療法士の学科教員から話題提供と集団討論 担当：中 徹（中 ・加藤） 理学療法士の経験談からのメッセージを受けて論議する</p> <p>第13回 理学療法士像の探求4：理学療法士の学科教員から話題提供と集団討論 担当：中 徹（木村・鳥海） 理学療法士の経験談からのメッセージを受けて論議する</p> <p>第14回 理学療法士像の探求5：理学療法士の学科教員から話題提供と集団討論 担当：中 徹（岡崎・黒川） 理学療法士の経験談からのメッセージを受けて論議する</p> <p>第15回 理学療法士像の探求6：理学療法士の学科教員から話題提供と集団討論 担当：中 徹（目黒・橋口） 理学療法士の経験談からのメッセージを受けて論議する</p>
科目の目的	グループワーク学習と集団ディスカッションを通じて、保健学の観点を持った上で、自らの理学療法士像を育み、明確専門基礎分野、専門分野の学習の学ぶ意義とを明確にすること。 本授業はディプロマポリシー4の「関心・意欲を高めること」を目的とした科目である。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 保健学の概要の理解の上に理学療法の職務内容と職域が説明できる。 理学療法士を目指す学生として必要な社会的な礼節およびコミュニケーションをもって行動できる。 自らの理学療法士像を説明することができる。 理学療法を学ぶことに興味を持ち、主体的・意欲的に学ぶ姿勢を示すことができる。
関連科目	全ての専門基礎科目、理学療法概論
成績評価方法・基準	提出課題（40%）、発言や司会および記録などグループ討議への参加状況（30%）、発表点（30%）

準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	1-2講義は公衆衛生学を復習しておくこと その他の回は講義と演習なので、毎回の復習や振り返り作業を行うこと（毎回30～45分程度） グループディスカッション時を中心にフィードバックを行う
教科書・参考書	特に定めない。必要に応じて資料を配布する。
オフィス・アワー	毎週月曜日昼休み時間（担当教員全員）
国家試験出題基準	国家試験出題基準には該当しない
履修条件・履修上 の注意	他人の意見をよく聞き、自ら発信するトレーニングとしても位置づけている授業ですので、積極的に受講してください。

講義科目名称：多職種理解と連携

授業コード：2P039

英文科目名称：Multidisciplinary Understanding and Cooperation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
中 徹			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
浅見知市郎			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 序論 解剖学とは何か 器官とその系統 上皮組織 支持組織</p> <p>第2回 序論 筋組織 神経組織 人体の外形と方向用語</p> <p>第3回 骨格系 骨格とは何か 骨の形 骨の構造 骨の発生と成長 骨の連結・関節</p> <p>第4回 骨格系 頭部の骨 脳頭蓋 顔面頭蓋 鼻腔・副鼻腔</p> <p>第5回 骨格系 脊柱 胸郭 上肢帯の骨 上腕の骨</p> <p>第6回 骨格系 前腕の骨 手の骨 下肢帯の骨 骨盤 大腿の骨 下腿の骨 足の骨</p> <p>第7回 筋系 筋の構造と機能 頭頸部の筋</p> <p>第8回 筋系 胸腹部の筋 上肢帯の筋 上腕の筋 前腕の筋 手の筋</p> <p>第9回 筋系 脈管系 下支帯の筋 大腿の筋 下腿の筋 足の筋 血管系総論</p> <p>第10回 脈管系 心臓 刺激伝導系 心臓の血管（冠状動脈） 肺循環と体循環</p> <p>第11回 脈管系 動脈系 静脈系</p> <p>第12回 脈管系 胎生時の循環系 リンパ系（リンパ節 リンパ本幹） 脾臓 胸腺</p> <p>第13回 脈管系 消化器系 血液・血球・造血組織 粘膜 腺 歯</p> <p>第14回 消化器系 口蓋 舌 唾液腺 咽頭</p> <p>第15回 消化器系 食道 胃</p>
科目の目的	医療技術者としての基本知識となる人体の肉眼解剖学的構造を習得する。 【知識・理解】
到達目標	人体の基本的な器官系の位置、構造を説明できる。
関連科目	解剖学Ⅱ 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ
成績評価方法・基準	試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	シラバスに沿って教科書の講義予定の部分を理解しながら通読すると、概ね1時間かかるはずである。
教科書・参考書	教科書：入門人体解剖学 藤田恒夫 南江堂 参考書：特になし
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する(asami@paz.ac.jp)。
国家試験出題基準	【理学療法士】 《専門基礎》- I-1-A-a, b B-a, b, c, d C-a, b E-a, b, c, d F-a J-a
履修条件・履修上の注意	教科書は必ず持参のこと。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
浅見知市郎			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 消化器系 小腸（十二指腸 空腸・回腸） 大腸 肝臓</p> <p>第2回 消化器系 呼吸器系 胆嚢 膵臓 鼻腔 副鼻腔</p> <p>第3回 呼吸器系 咽頭 喉頭 気管 気管支 肺</p> <p>第4回 泌尿器系 生殖器系 腎臓 尿管 膀胱 尿道 精巣・精巣上体</p> <p>第5回 生殖器系 精管 精嚢と前立腺 陰茎 精液と精子 卵巣 卵管 子宮 胎盤 膣と外陰部</p> <p>第6回 腹膜 内分泌系 腹膜 下垂体 松果体 甲状腺 上皮小体 副腎 膵島</p> <p>第7回 神経系 神経系の構成 中枢神経系（脊髄 延髄と橋 小脳 中脳）</p> <p>第8回 神経系 間脳 大脳</p> <p>第9回 神経系 脳の血管 脳室と脳脊髄膜</p> <p>第10回 神経系 末梢神経（脳神経 脊髄神経）</p> <p>第11回 神経系 脊髄神経 自律神経系（交感神経 副交感神経）</p> <p>第12回 神経系 感覚器系 伝導路 視覚器（眼球）</p> <p>第13回 感覚器系 視覚器（眼球の付属器） 平行聴覚器（外耳 中耳 内耳）皮膚 角質器</p> <p>第14回 感覚器系 発生学 皮膚の腺 受精から着床 発生の第2週・第3週</p> <p>第15回 発生学 発生の第4週～第8週 胎生第3月～出生</p>
科目の目的	医療技術者としての基本知識となる人体の肉眼解剖学的構造を習得する。 【知識・理解】
到達目標	人体の基本的な器官系の位置、構造を説明できる。
関連科目	解剖学Ⅰ 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ
成績評価方法・基準	試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	シラバスに沿って教科書の講義予定の部分を理解しながら通読すると、概ね1時間かかるはずである。
教科書・参考書	教科書：入門人体解剖学 藤田恒夫 南江堂 参考書：特になし
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する(asami@paz.ac.jp)。
国家試験出題基準	【理学療法士】 《専門基礎》- I-1 -D-a, b F-a, b, c, d G-a K-fg L-a, b, c M-a P-a, b Q
履修条件・履修上の注意	教科書は必ず持参のこと

講義科目名称：解剖学実習

授業コード：2P042

英文科目名称：Practice in Anatomy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2学年	1単位	必修
担当教員			
浅見知市郎			

授業形態	実習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
浅田 春美			
黒川 望			

授業形態	小人数グループによる実技演習
授業計画	<p>第1回 触診の準備<解剖学の知識を復習> (浅田・黒川) 骨標本(全身)を用いての演習<骨、骨部位の名称と特徴の確認.> 「骨・骨部位(主に筋の附着部・骨指標となる部位)の名称を指し示して言うことができる」 「頭蓋骨から足部まで左右を区別して骨を並べることができる」</p> <p>第2回 触診講義の学習の仕方/触診手技の練習 (浅田・黒川) 体表面から触診する場合の骨、関節、筋、靭帯の触れ方(ポイント)の練習</p> <p>第3回 頭頸部・上肢<肩甲帯・肩・上腕> (浅田・黒川) 主に骨・関節の触診</p> <p>第4回 上肢<肩甲帯・肩・上腕>・体幹 (浅田・黒川) 主に軟部組織(筋・靭帯・動脈の拍動)の触診</p> <p>第5回 上肢<前腕・肘・上腕> (浅田・黒川) 主に骨・関節・軟部組織の触診</p> <p>第6回 上肢<前腕・手関節・手> (浅田・黒川) 主に骨・関節・軟部組織の触診</p> <p>第7回 上肢<前腕・手関節・手> (浅田・黒川) 主に骨・関節・軟部組織の触診</p> <p>第8回 上肢実技の確認 (浅田・黒川) 前半(上肢部分)の骨・関節・筋について触診の実技確認を実施<3分/1人程度></p> <p>第9回 下肢<骨盤・股関節> (浅田・黒川) 主に骨・関節・軟部組織の触診</p> <p>第10回 下肢<骨盤・股関節> (浅田・黒川) 主に骨・関節・軟部組織の触診</p> <p>第11回 下肢<膝関節・下腿> (浅田・黒川) 主に骨・関節・軟部組織の触診</p> <p>第12回 下肢<膝関節・下腿> (浅田・黒川) 主に骨・関節・軟部組織の触診</p> <p>第13回 下肢<下腿・足関節・足部> (浅田・黒川) 主に骨・関節・軟部組織の触診</p> <p>第14回 下肢<下腿・足関節・足部> (浅田・黒川) 主に骨・関節・軟部組織の触診</p> <p>第15回 実技試験(全範囲) (浅田・黒川) 全範囲(上肢・下肢)の骨・関節・靭帯・動脈の拍動について触診の実技確認 実技確認終了後、個別でフィードバックを実施。60%未満の場合、補習を行った後、再度、実技確認を行う。</p>
科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> 解剖学の知識を基に手または指を用いて、皮下にある組織の形・大きさ・硬さ・位置・固有の運動性などを識別する技術習得する。 運動学Ⅰ、理学療法評価学と並行して授業が進むため、運動器の構造と機能の関連をより深く理解し、検査・測定技術の基礎固めを目的とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 骨の部位、関節裂隙、靭帯、筋、腱、動脈を触知により区別できる(対学生)。 体表から触れることができるそれらの部位を解剖学アトラスで参照できる。 これらの名称(筋については、起始・停止・作用)を述べることができる。 実技では、最も触知しやすい肢位や運動を相手に分かりやすい言葉で指示できる。
関連科目	解剖学Ⅰ、運動学Ⅰ、運動学Ⅱ、専門科目全般
成績評価方法・基準	筆記試験(50%)・実技試験(50%) それぞれ60%以上の正解率
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> 解剖学で学んだ骨や筋の名称を復習しておくこと 筋の「起始・停止・作用」は、教科書「運動療法のための機能解剖学的触診技術」において予習・復習しておく 配布資料の実施予定日の内容を確認し、該当する教科書のページを予習・復習とも読んでおく 講義終了後、学生同士で実技練習を行い、不明な点を積極的に教員に質問する(直後または次回講義開始時) <p><予習・復習：各1時間程度要する></p>
教科書・参考書	<p>【教科書】</p> <ol style="list-style-type: none"> 林 典雄著：「運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢」, メディカルビュー 林 典雄著：「運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢」, メディカルビュー 「ネッター解剖学アトラス」相磯貞和 訳 (南江堂)

	<p>【参考書】1. Stanley Hoppenfeld著・野島元雄監訳：図解 四肢と脊椎の診かた，医歯薬出版，1984 2. 藤原理著：筋と骨格の触診術の基本，マイナビ，2013 3. 竹井仁著：触診機能解剖カラーアトラス上下，文光堂，2008.</p>
オフィス・アワー	当該授業終了後
国家試験出題基準	《専門基礎》－I－1－B－d、C－b、D－a、H－a、b
履修条件・履修上の注意	<p>実技演習を行うため、準備をしていない場合、履修できないことがある <指輪、時計など不必要なものを外し、手や手指のケアを心がける（爪・傷など）> <可能な限り直接、皮膚に触れるため脱衣しやすく、動きやすい服装を準備する></p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
洞口 貴弘			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 ガイダンス 生理学の基礎の基礎 生理学講義を受講するにあたって 細胞・組織・器官</p> <p>2、3 神経の基本的機能 神経細胞の形態、興奮伝導、興奮伝達</p> <p>4、5 筋肉の基本的機能 筋細胞の形態と興奮、骨格筋の収縮</p> <p>6～8 神経系の機能 末梢神経系(体性神経系、自律神経系)、中枢神経系、運動機能の調節</p> <p>9～12 感覚の生理学 様々な感覚の受容と知覚のメカニズム</p> <p>13～15 睡眠・記憶・情動 脳の高次機能</p>
科目の目的	人体の各部分の構造と機能を学び、医療職に必要な基礎知識を身につける(ディプロマポリシー01「知識・理解」に相当)
到達目標	選択肢の中から、正しい人体の機能や、それを生み出すしくみを選ぶことができる
関連科目	解剖学 I・II、生化学
成績評価方法・基準	講義題目毎に小テストを行う 小テストの平均点×0.7+期末試験の点数×0.3 で最終的な評価を決定する 公欠以外の欠席は、原則最終成績から1回につき10点減点する
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業内容および小テストや期末テストの内容は、指定した教科書に準ずる そのため、指定した教科書を中心とした予習・復習が単位認定のカギとなる(約2時間)
教科書・参考書	教科書：「シンプル生理学 第7版」貴呂富久子、根木英雄(南江堂) 参考書：「標準生理学」(医学書院) 「人体の正常構造と機能」(日本医事新報社) 「トートラ 人体の構造と機能」(丸善) 他
オフィス・アワー	講義実施日の18:00～19:00
国家試験出題基準	≪専門基礎≫-I-2-A-a ≪専門基礎≫-I-2-B-a, b ≪専門基礎≫-I-2-C-a, b, c, d, e, f, g, h, i ≪専門基礎≫-I-2-D-a, b, c, d, e ≪専門基礎≫-I-2-E-b ≪専門基礎≫-I-2-F-a, b, c, d ≪専門基礎≫-I-2-G-a, b
履修条件・履修上の注意	15コマ講義なので、5回の欠席で履修放棄となるので注意

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
洞口 貴弘			

授業形態	講義
授業計画	<p>1、2 内分泌系の機能 ホルモンの一般的特徴、内分泌器官の機能</p> <p>3～5 循環の生理学 心臓血管系の基本構造と機能、調節</p> <p>6、7 呼吸の生理学 呼吸器系基本構造と機能、調節</p> <p>8、9 尿の生成と排泄および体液とその調節 腎臓の構造と機能、調整、尿生成、蓄尿と排尿、体液の恒常性を維持する仕組み</p> <p>10、11 消化と吸収 消化管の基本構造と機能、調節</p> <p>12、13 血液の生理学 血液の組成とその機能</p> <p>14、15 体温とその調節 体温の意義とその調節メカニズム</p>
科目の目的	人体の各部分の構造と機能を学び、医療職に必要な基礎知識を身につける(ディプロマポリシー01「知識・理解」に相当)
到達目標	選択肢の中から、正しい人体の機能や、それを生み出すしくみを選ぶことができる
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生化学
成績評価方法・基準	講義題目毎に小テストを行う 小テストの平均点×0.7+期末試験の点数×0.3 で最終的な評価を決定する 公欠以外の欠席は、原則最終成績から1回につき10点減点する
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業内容および小テストや期末テストの内容は、指定した教科書に準ずる そのため、指定した教科書を中心とした予習・復習が単位認定のカギとなる(約2時間)
教科書・参考書	教科書：「シンプル生理学 第7版」貴邑富久子、根木英雄(南江堂) 参考書：「標準生理学」(医学書院) 「人体の正常構造と機能」(日本医事新報社) 「トートラ 人体の構造と機能」(丸善) 他
オフィス・アワー	講義実施日の18:00～19:00
国家試験出題基準	<<専門基礎>>-I-2-E-a <<専門基礎>>-I-2-H-a, b, c, d <<専門基礎>>-I-2-I-a, b, c, d <<専門基礎>>-I-2-J-a, b, c, d <<専門基礎>>-I-2-K-a, b, c, d, e, f, g <<専門基礎>>-I-2-L-a, b, c <<専門基礎>>-I-2-M-a <<専門基礎>>-I-2-N-a, b, c <<専門基礎>>-I-2-O-a, b <<専門基礎>>-I-2-P-a, b
履修条件・履修上の注意	15コマ講義なので、5回の欠席で履修放棄となるので注意

講義科目名称：生理学実習

授業コード：2P046

英文科目名称：Practice in Physiology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
洞口 貴弘			

授業形態	実習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：運動生理学

授業コード：2P047

英文科目名称：Exercise Physiology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員			
江口 勝彦			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
高橋 克典			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 生化学入門～ 生体化学成分の基礎 ～ 生体を構成する主な化学成分について概説する。また細胞の基本構造および、それぞれの細胞小器官の役割について生化学的な視点から解説する。</p> <p>2, 3 生体成分の構造と機能 I～ 糖質と病態 ～ 三大栄養素の一つである糖質について、その分類や代謝経路などを中心に解説する。また、インスリンやグルカゴンのような糖質制御ホルモンと病態との関係を解説する。</p> <p>4, 5, 6 生体成分の構造と機能 II～ 脂質と病態 ～ 三大栄養素の一つである脂質について、①エネルギー源としての役割、②生体膜構成成分としての役割、③生理活性シグナル因子としての役割を中心に解説する。また、生体内における脂質の代謝異常と病態との関係を解説する。</p> <p>7, 8 生体成分の構造と機能 III～ タンパク質・アミノ酸と病態 ～ 三大栄養素の一つであるタンパク質について、その分類や代謝経路などを中心に解説する。また、タンパク質を構成するアミノ酸の分類、性質、病態との関連などについて解説する。</p> <p>9 生体成分の構造と機能 IV～ 遺伝子と病態 ～ RNAやDNAを構成する核酸の構造や性質を解説する。また、DNAの翻訳からタンパク質の生合成までのメカニズムを解説する。さらに、遺伝子の変異に伴い発症する病態について解説する。</p> <p>10, 11 生体成分の構造と機能 V～ ビタミンの役割と病態 ～ 微量栄養素であるビタミンの分類と機能を解説する。また、脚気、懐血病などビタミン欠乏に伴い発症する病態について解説する。</p> <p>12, 13 生体成分の構造と機能 VI～ ミネラルの役割と病態 ～ 生体に不可欠なミネラルの種類および欠乏症、過剰症について解説する。</p> <p>14 ホメオスタシスとホルモン ホルモンの分類とそれぞれの標的組織について解説する。また、ホルモンの分泌異常による疾患について解説する。</p> <p>15 臓器の生化学 人体の各臓器（循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、神経系）における生化学的な代謝機能および関連疾患を概説する。</p>
科目の目的	生命現象の基本原理とそれに関連する病態を分子レベルで理解することで、化学的根拠に基づいた視点を養う。【知識・理解】
到達目標	生体内の様々な化学物質による生命現象を理解したうえで、それらが各種病態においてどのように変化するのかを理解する。
関連科目	化学A・B、生物学A・B、生理学I・II
成績評価方法・基準	定期試験（100%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	有機化学および生物学の基礎知識を必要とする。準備学習に必要な学習時間の目安は概ね1時間程度。
教科書・参考書	教科書：栄養科学シリーズ NEXT 生化学（講談社） 参考書：シンプル生化学（南江堂）
オフィス・アワー	講義終了後 質問は E-mail (k-takahashi@paz.ac.jp) でも受け付ける
国家試験出題基準	人体の構造と機能及び心身の発達-I-2-N-a, 人体の構造と機能及び心身の発達-I-2-N-b, 人体の構造と機能及び心身の発達-I-2-J-a, 人体の構造と機能及び心身の発達-I-2-K-d, 人体の構造と機能及び心身の発達-I-2-K-e, 人体の構造と機能及び心身の発達-I-2-K-f, 人体の構造と機能及び心身の発達-I-2-K-g
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員			
高橋 正明			

授業形態	講義
授業計画	1回 コースオリエンテーション 運動学とは？ 関節運動 形態と機能
	2回 運動の原則1 生体力学 てこ バランス 支持基底面と重心
	3回 運動の原則2 生体力学 てこ バランス 支持基底面と重心
	4回 運動器系組織1 骨・関節・靭帯の組織と役割
	5回 運動器系組織2 筋の発生と組織 収縮のメカニズム
	6回 運動器系組織3 筋力 収縮様式 筋張力 共同運動
	7回 機能解剖足部1 足関節の形態と運動
	8回 機能解剖足部2 足部・足関節の形態と機能
	9回 機能解剖足部3 筋の働き
	10回 機能解剖足部4 アーチ構造
	11回 機能解剖膝関節1 膝関節の形態と機能 (足部・足関節クイズ・フィードバック)
	12回 機能解剖膝関節2 半月・靭帯の構造と機能
	13回 機能解剖膝関節3 筋の働き
	14回 機能解剖膝関節4 立位での膝の役割
	15回 機能解剖股関節1 股関節の形態と機能 (膝関節クイズ・フィードバック)
	16回 機能解剖股関節2 骨盤・股関節の運動
	17回 機能解剖股関節3 筋の働き
	18回 機能解剖股関節4 股関節の力学
	19回 機能解剖体幹1 脊柱の形態と機能 (股関節クイズ・フィードバック)
	20回 機能解剖体幹2 脊柱の運動
	21回 機能解剖体幹3 筋の働き
	22回 機能解剖体幹4 胸郭運動
	23回 機能解剖体幹5 骨盤の運動
	24回 機能解剖肩・肩甲帯1 肩甲帯・肩関節の機能と構造 (体幹クイズ・フィードバック)
	25回 機能解剖肩・肩甲帯2 肩甲帯の関節と運動

	<p>26回 機能解剖肩・肩甲帯3 肩関節の運動</p> <p>27回 機能解剖肩・肩甲帯4 筋の働き</p> <p>28回 機能解剖肘関節1 肘関節の機能と構造 (肩甲帯クイズ・フィードバック)</p> <p>29回 機能解剖肘関節2 肘関節の運動</p> <p>30回 機能解剖肘関節3 筋の働き</p>
科目の目的	人の身体運動を機能-構造の視点から分析するのに必要となる基本的な知識や概念を学び、自分自身の関節運動を説明することができる。【知識・理解】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関節運動の原則とバランス保持について説明できる。 2. 頸部・体幹・肢節の関節運動を機能-構造的見方で説明できる。 3. 骨、関節、筋等の運動器が関節運動において果たす役割を説明できる。 4. 代表的な関節の構造物が果たす役割について可動性と安定性の要素で分類,説明できる。
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ 生理学Ⅰ・Ⅱ 運動学Ⅱ 運動学実習 運動生理学 表面解剖学と触診法 臨床動作分析学 運動療法総論 運動器系理学療法評価・治療学 神経系理学療法評価・治療学 日常生活活動学 他
成績評価方法・基準	各関節ごとの機能解剖学小テスト(クイズ)を80%, 骨・関節・筋および力学についての試験を20%として総合点を算出し60点以上を合格とする。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	運動学は応用科学であるため、四肢体幹の解剖学の基礎知識を前提に授業を進める。該当する部分を解剖学の教科書で確認しておくこと。2コマ連続の授業なので予習に1時間は必要。
教科書・参考書	<p>教科書</p> <p>「標準理学療法学・作業療法学 運動学」高橋正明編 (医学書院)</p> <p>「基礎運動学 第6版補訂」中村隆一, 他著(医歯薬出版)</p> <p>参考書</p> <p>「関節の生理学Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ」Kapandjid LA 著おいお(医歯薬出版)</p> <p>「筋骨格系のキネシオロジー」D.A. Neumann著(医歯薬出版)</p> <p>「Kinesiology」Oatis CA (Lippincott Williams & Wilkins)</p>
オフィス・アワー	金曜日 11:0~12:30 (高橋(正)研究室あるいは学部長室)
国家試験出題基準	《専門基礎》-Ⅰ-3-A-abcdef, B-abcde
履修条件・履修上の注意	解剖学用語の知識を前提に授業を進めるため、それらを教科書で確認しておくこと。

講義科目名称：運動学Ⅱ

授業コード：2P050

英文科目名称：Kinesiology II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
高橋 正明			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：運動学実習

授業コード：2P051

英文科目名称：Practice in Kinesiology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
岡崎 大資			

授業形態	実習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：人間発達学

授業コード：2P052

英文科目名称：Human Development

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
中 徹			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員			
後藤 香織			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 栄養学の目的 1 食と私たち 食育の必要性</p> <p>2 栄養素の種類と体内での主たる役割 一日のエネルギーを求める</p> <p>3 栄養素の科学 1 糖質の消化</p> <p>4 栄養素の科学 2 糖質の代謝</p> <p>5 栄養素の科学 3 タンパク質の構造、消化、代謝</p> <p>6 栄養素の科学 4 脂質の構造と種類</p> <p>7 栄養素の科学 5 脂質の消化と代謝</p> <p>8 栄養素の科学 6 電解質とビタミン</p> <p>9 栄養素の科学 7 核酸の消化吸収代謝</p> <p>10 おいしさの科学 1 嗅覚と食品</p> <p>11 おいしさの科学 2 色と味</p> <p>12 おいしさの科学 3 咀嚼とテクスチャー</p> <p>13 献立とは 日本料理と西洋料理の献立 食品成分の計算</p> <p>14 献立と病態栄養学 病気と献立、食品の選び方</p> <p>15 まとめ 1回から14回までの復習と注意点解説</p>
科目の目的	人体が必要とする栄養素を学び、各栄養素が人体に消化吸収される過程を学ぶ。また、栄養素を含む食品と人体が食べ物を欲する科学的過程を学び、医療従事者として必要な栄養学、食品学の基本知識を養成する事を目的とする。
到達目標	<p>基礎医学（解剖学、生理学、生化学）に関連した栄養学の基礎を学ぶ。また日々の食品摂取の判断ができるようにする。</p> <p>栄養素と消化、吸収、代謝に関わる知識の習得、一日の消費カロリーの計算、一日の摂取エネルギーの計算、運動時の代謝、和食の伝統文化、美味しく感じる為の脳科学的方法を見につけます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養学の基礎的知識と教養を身につけている。 ・栄養に関わる多様な情報を適切に分析し、問題解決する方法を理解している。 ・栄養分野の諸課題を見出し、科学的洞察による的確な判断ができる。 ・栄養学分野の基本的技術を提供することができる。 ・NSTを実践するための、コミュニケーション能力を身につけている。 ・生涯にわたって栄養分野を探索し、その発展に貢献する意欲を持っている。 ・人と社会に深い関心を持って、地域の栄養保健医療に寄与できる。 ・人権を尊重し、高い倫理観を持って社会に貢献する姿勢を身につけている。
関連科目	①解剖学Ⅰ・Ⅱ ②生化学 ③生理学 ④疾病の成り立ち
成績評価方法・基準	定期試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	高校の生物学および、解剖学、生理学とを見直しておく。 成分表の後半のページを読んでおく。20分予習する。
教科書・参考書	教科書：新選 食品成分表（実教出版） 参考書：新体系看護学 人体の構造と機能2 栄養生化学（メジカルフレンド社）

看護栄養学（医歯薬出版）	
オフィス・アワー	授業の前後
国家試験出題基準	【看護師】 ≪必修問題≫-I-2-C-b ≪人体の構造と機能≫-I II-12-A-ab ≪疾病の成り立ちと回復の促進≫-III-9-A-abcdefg ≪成人看護学≫-III-11-A-c
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
宗宮 真			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 医療のシステムと実際 (1) 「医療関連職種・保健医療の提供体制」</p> <p>第2回 医療のシステムと実際 (2) 「医療保険制度」</p> <p>第3回 医療のシステムと実際 (3) 「医療・保健・福祉の現状」</p> <p>第4回 医療のシステムと実際 (4) 「診療の流れ (患者中心の医療)」</p> <p>第5回 医療のシステムと実際 (5) 「診療の流れ (診断、診療記録、チーム医療)」</p> <p>第6回 医療のシステムと実際 (6) 「医療安全」</p> <p>第7回 健康と疾病 (1)、既出事項の確認 「健康・疾病予防」、既出事項の確認</p> <p>第8回 健康と疾病 (2) 「加齢・疾病・障害」</p> <p>第9回 医学・医療の歩み 「医学・医療の歩み」</p> <p>第10回 医療における課題 (1) 「医療従事者と生命倫理」</p> <p>第11回 医療における課題 (2) 「医療機器・技術の発達」</p> <p>第12回 医療における課題 (3) 「臓器移植医療」</p> <p>第13回 医療における課題 (4) 「遺伝子診断・出生前診断」</p> <p>第14回 医療における課題 (5) 「救急医療・災害医療」</p> <p>第15回 医療における課題 (6)、まとめ 「ターミナルケア」「まとめ」</p>
科目の目的	医学・医療分野に関する各講義に先立ち、医学・医療の問題を幅広く概観し、専門分野の学習につなげる。 【知識・理解】
到達目標	医療のシステム、医療の実際、健康と疾病、医学・医療の歩み、医療が抱える課題を幅広く理解し、考えることを目標とする。
関連科目	臨床医学 (内科学、臨床神経学、整形外科学、臨床医学特殊講義、臨床検査・画像診断学、精神医学、小児科学、リハビリテーション医学、老年医学、救急・免疫・感染症学、公衆衛生学)、生命倫理など
成績評価方法・基準	講義内で行う試験 (2回行い、時期や範囲等の詳細については教員が講義内で説明する。70%)、課題提出 (20%)、授業中の質問や確認問題への回答 (10%) 試験・課題等については、講義内で解説を行うなど、フィードバックを行う。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業で解説した重要事項について、主に復習を中心とした自己学習を行い、次回授業までに、重要事項については自ら説明できるレベルまで理解しておくこと。概ね1.5時間の授業外学習の時間を確保すること。
教科書・参考書	教科書： 使用しない 参考書：「学生のための医療概論 (第3版増補版)」千代豪昭、黒田研二 (医学書院) 参考書：「ケースブック医療倫理」赤林朗、大林雅之ほか (医学書院)
オフィス・アワー	講義終了後。質問の内容により、別に時間を設定する。
国家試験出題基準	《専門基礎》-II-1-A-a, b, c 《専門基礎》-II-1-B-a, b
履修条件・履修上の注意	前回講義の復習に利用する場合があるため、前回の配布資料を持参すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
岡山 香里			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 病理学序論・組織細胞障害と修復機構1 病理学とは、変性</p> <p>2 組織細胞障害と修復機構2 アポトーシス、壊死</p> <p>3 組織細胞障害と修復機構3 再生、化生、瘢痕治癒</p> <p>4 物質代謝異常1 糖質代謝異常</p> <p>5 物質代謝異常2 脂質代謝異常</p> <p>6 物質代謝異常3 核酸代謝異常、生体内色素代謝異常、無機物代謝異常</p> <p>7 循環障害1 循環血液量の異常</p> <p>8 循環障害2 閉塞性の循環障害</p> <p>9 循環障害3 傍側循環、全身性の循環障害</p> <p>10 炎症1 炎症とは、炎症の分類、炎症の経過</p> <p>11 炎症2 炎症の各型、自己免疫性疾患</p> <p>12 先天異常 遺伝子・染色体異常と発生発達異常</p> <p>13 腫瘍1 定義、分類、良性腫瘍と悪性腫瘍</p> <p>14 腫瘍2 腫瘍の発生、発育、分化度</p> <p>15 腫瘍3 腫瘍の発生要因、腫瘍の種類</p>
科目の目的	病理学とは疾病の原因、発生メカニズムなど、疾病の本態を解明する学問である。病理学総論として代謝障害、循環障害、先天異常、炎症、腫瘍について疾病で生じる変化、経過、疾病の予後を捉え、理解ができるようにする。【知識・理解】
到達目標	<p>1. 疾病の原因、経過、治療法、予後を説明できる。</p> <p>2. 疾病の検査事項を説明できる。</p> <p>3. 疾病の病理所見を説明できる。</p>
関連科目	解剖学
成績評価方法・基準	定期試験80%、小テスト20%により成績を評価する。試験形態は筆記試験とする。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について予習、復習を行うこと。準備学習に必要な時間は1時間程度とする。
教科書・参考書	教科書：講師が配布する資料（授業ごとに配布する） 参考書：なるほどなっとく！病理学 病態形成の基本的な仕組み 小林正伸著 南山堂
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する。
国家試験出題基準	<p>《疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進》-II-2-A-a</p> <p>《疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進》-II-2-A-b</p>
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：薬理学

授業コード：2P056

英文科目名称：Pharmacology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
栗田 昌裕			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	必修
担当教員			
石館 敬三			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 公衆衛生の理解 健康の概念の変遷、公衆衛生の概念</p> <p>第2回 人口と公衆衛生 世界人口の動向、日本の少子高齢化の進行 年齢3区分別人口の割合</p> <p>第3回 環境と公衆衛生 人間と生活環境、環境行政のあゆみ、地球環境問題</p> <p>第4回 同 上 大気汚染の状況、公害健康被害補償、環境基準</p> <p>第5回 食と公衆衛生 食中毒の発生状況、食中毒の種類、食中毒の予防</p> <p>第6回 国民の健康と保健統計 健康指標、20世紀100年の変化</p> <p>第7回 同 上 年齢調整死亡率の意義と計算</p> <p>第8回 疫学の疫学と予防、予防の概念 疫学の概念、疫学調査方法、因果関係推論、スクリーニング</p> <p>第9回 同 上 感染症の疫学、新感染症予防法</p> <p>第10回 同 上 結核対策、HIV対策</p> <p>第11回 公衆衛生活動の実際 がんの予防、その他生活習慣病予防</p> <p>第12回 同 上 精神保健対策、介護保険制度</p> <p>第13回 同 上 母子保健、老人保健、歯科保健、難病対策</p> <p>第14回 社会保障と医療の動向 社会保障の概要、国民医療費</p> <p>第15回 同 上 医療法改正の動向、地域医療連携、医療人材・医療資源の国際比較</p>
科目の目的	健康及び公衆衛生の基本的概念を学習する。タテ系である各種疾患対策、環境対策とヨコ系である統計、疫学、健康教育、試験検査などが織りなす総合科学であり、活動であることを理解する。【知識・理解】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活者の健康の保持・増進を目的とする公衆衛生活動を理解する。 2. 公衆衛生活動は、政治、経済、社会の動向と密接に関連していることを理解し、広い視野を養う。 3. 公衆衛生活動の基礎的技法として、集団からアプローチする疫学、保健統計、地域組織活動等を理解する。
関連科目	生命倫理、環境学、社会学、情報処理、救急・免疫・感染症学
成績評価方法・基準	試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	「国民衛生の動向」は公衆衛生の現実社会を写している鏡である。 講義前に該当する事項に眼を通しておくことが望ましい。 準備学習に必要な学習時間の目安 60時間
教科書・参考書	<p>【教科書】 「最新臨床検査学講座 公衆衛生学」照屋浩司他著（医歯薬出版） 「国民衛生の動向 2016/2017版」（一般財団法人 厚生労働統計協会）</p> <p>【参考書】 特になし</p>
オフィス・アワー	講義の前後
国家試験出題基準	《専門基礎》-Ⅲ-1-B-abcdefghij
履修条件・履修上の注意	保健統計の簡単な計算（例、罹患率、年齢調整死亡率）に習熟するために電算機を持参すること

講義科目名称：臨床検査・画像診断学

授業コード：2P058

英文科目名称：Clinical Laboratory Medicine and Image Diagnostics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
古田島伸雄			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：臨床医学特殊講義

授業コード：2P059

英文科目名称：Special Lecture of Clinical Medicine

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
宗宮 真			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：内科学

授業コード：2P060

英文科目名称：Internal Medicine

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
門傳 剛			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：整形外科学 I

授業コード：2P061

英文科目名称：Orthopedics I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
宗宮 真			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：整形外科学Ⅱ

授業コード：2P062

英文科目名称：Orthopedics II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
宗宮 真			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：臨床神経学 I (神経内科学)

授業コード：2P063

英文科目名称：Clinical Neurology I (Neurology)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
宗宮 真			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：臨床神経学Ⅱ（小児神経学・脳神経外科学）

授業コード：2P064

英文科目名称：Clinical Neurology II (Pediatric Neurology and B...

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
井埜 利博			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：精神医学

授業コード：2P065

英文科目名称：Psychiatry

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
平尾 良雄			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：小児科学

授業コード：2P066

英文科目名称：Pediatrics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
井埜 利博			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：リハビリテーション医学

授業コード：2P067

英文科目名称：Rehabilitation Medicine

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
宗宮 真			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：老年医学

授業コード：2P068

英文科目名称：Gerontology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
尾林 徹			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：救急・免疫・感染症学

授業コード：2P069

英文科目名称：Clitical Care Medicine, Immunology and Infectiou…

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
近土真由美			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：スポーツ医学

授業コード：2P070

英文科目名称：Sports Medicine

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
山口 光國			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：緩和医療学

授業コード：2P071

英文科目名称：Palliative Medicine

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
担当教員			
木村 朗			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：カウンセリング

授業コード：2P072

英文科目名称：Counseling

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	選択
担当教員			
榎本 光邦			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
松澤 正			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 リハビリテーションとは 定義、理念、歴史</p> <p>第2回 障害論 障害とは、障害のレベル、障害者の実態</p> <p>第3回 障害者の心理 障害者の心理的適応、特徴、障害受容</p> <p>第4回 リハビリテーションの構成 医学的、教育的、職業的、社会的リハビリテーション</p> <p>第5回 医学的リハビリテーション 目的によるリハビリテーション、時期的リハビリテーション</p> <p>第6回 チーム医療 リハビリテーション医療の職種</p> <p>第7回 リハビリテーション医療の進め方 診断、情報収集、ケース会議</p> <p>第8回 地域リハビリテーション 地域リハビリテーションとは、地域リハビリテーションの施設</p> <p>第9回 リハビリテーションにおける評価学 評価とは、情報収集の方法、評価の種類</p> <p>第10回 リハビリテーションにおける治療学 リハビリテーションの治療手段、理学療法、作業療法、補装具療法</p> <p>第11回 教育的リハビリテーション 特別支援教育の歴史、特徴</p> <p>第12回 職業的リハビリテーション 職業的リハビリテーションとは、職業相談、職業評価、職業訓練、就職斡旋</p> <p>第13回 社会的リハビリテーション 社会的リハビリテーションとは、社会保障、社会保険、社会福祉</p> <p>第14回 寝たきり老人のリハビリテーション 寝たきり老人とは、寝たきり老人の実態、障害、リハビリテーション</p> <p>第15回 認知症リハビリテーション 認知症のリハビリテーション</p>
科目の目的	リハビリテーションにおける医学的、教育的、職業的、社会的リハビリテーション領域の目的、対象、方法を通して、リハビリテーションの中での理学療法士や看護師の位置付けや役割を理解させる。
到達目標	リハビリテーション医療の中での理学療法士や看護師の役割を理解し、実践できるようになることを目標にする。
関連科目	理学療法概論、リハビリテーション医学
成績評価方法・基準	試験100%（レポートを課す場合もある）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1. 障害や福祉に関する用語を調べ、学習する。 2. できれば障害福祉施設でのボランティア活動をする。 1コマあたりの準備学習時間の目安：1時間
教科書・参考書	教科書：使用しない（プリント教材を資料する） 参考書1：「入門リハビリテーション概論」中村隆一（医歯薬出版） 参考書2：「現代リハビリテーション医学」千野直一（金原出版）
オフィス・アワー	講義の前後
国家試験出題基準	《専門基礎》 Ⅲ-2-A-a~e, Ⅲ-2-B-a, b, Ⅲ-2-C-a~d, Ⅲ-2-D-a~d, Ⅲ-2-E-a~e
履修条件・履修上の注意	特になし

講義科目名称：リハビリテーション関連領域論

授業コード：2P074

英文科目名称：Related Fields to Rehabilitation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
関 修司			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
榎本 光邦			

授業形態	講義を中心に、随時10分程度のワーク（個別・グループ）も取り入れる。		
授業計画	第1回	臨床心理学とは何か 臨床心理学とは、心の不健康な人々を健康へと導くために、心理学の理論や知識そして心理学的技法を用いて専門的援助を行う心理学の応用的な一分野である。本講義では、臨床心理学の歴史や構造について学ぶ。	
	第2回	無意識の心理学（1） 精神分析とは、オーストリアの神経学者フロイトによって創始された人間の心を研究する方法であり、理論であり、精神疾患や不適応の治療法である。本講義では、心理療法としての精神分析を中心に、その基本概念について学習する。 key words：意識、前意識、無意識、エス（イド）、自我、超自我、エディプス・コンプレックス	
	第3回	無意識の心理学（2） 分析心理学はスイスの精神医学者カール・グスタフ・ユングによって創始された心理学・心理療法であり、一般にユング心理学として知られている。ユングは当初フロイトから強い影響を受けたが、その理論の違いからフロイトと決別することになる。本講義では、フロイトの理論との比較を通してユングの理論について理解を深める。 key words：個人的無意識、普遍的無意識、元型、症状の持つ意味、夢分析	
	第4回	クライアント中心療法 カール・ロジャースは20世紀アメリカを代表する心理学者の1人である。ロジャースは人間の本質を善ととらえる人間観に基づき、人間の成長力、主体性を重視し、心理療法を「クライアント中心」に進めていくという大きな変革をもたらした。本講義ではロジャースの生涯をたどり、その理論の変遷について理解する。 key words：クライアント中心療法、パーソン・センタード、静かなる革命、受容、共感、自己一致、建設的なパーソナリティ変化が生じるための必要かつ十分な条件	
	第5回	臨床心理アセスメント 臨床心理アセスメントは、対象となる事例の心理的側面に関する情報（データ）を収集し、その情報を統合し、事例の心理的問題についての総合的な査定を行う作業である。臨床心理アセスメントが精神医学的診断と同一のものとして混同されることがあるが、本質的には臨床心理アセスメントは精神医学的診断とは異なる特徴を持っている。本講義では、臨床心理アセスメントの技法について学び、精神医学的診断との違いについて理解を深める。 key words：面接法、観察法、検査法	
	第6回	障がいの理解とスポーツ（初級障がい者スポーツ指導員基準カリキュラム（1）） 初級障がい者スポーツ指導員とは、地域で活動する指導者で、主に初めてスポーツに参加する障がい者に対し、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援する者である。本講義ではその基準カリキュラムの一部である「知的障害」について学び、理解を深める。 key words：初級障がい者スポーツ指導員、知的障害	
	第7回	障がいの理解とスポーツ（初級障がい者スポーツ指導員基準カリキュラム（2）） 前回に続き、初級障がい者スポーツ指導員の基準カリキュラムの一部である「知的障害」と、「精神障害」について学び、理解を深める。 key words：初級障がい者スポーツ指導員、知的障害、精神障害	
	第8回	こころの問題を理解する（1） 「不安症／不安障害（神経症）」 不安症／不安障害（神経症）は主に心理的原因によって生じる心身の機能障害の総称であり、精神病とは異なる。本講義では不安症の種類や支援の方法について学び、理解を深める。 key words：分離不安症、選択制緘黙、限局性恐怖症、社交不安症、パニック症、広場恐怖症、全般不安症	
	第9回	こころの問題を理解する（2） 「身体症状症と解離性同一症／解離性同一性障害」 神経症（ノイローゼ）の一類型として扱われていた「ヒステリー」は、DSM-III以降、ヒステリー概念が排除されたために、「転換ヒステリー」が「身体表現性障害」に、「解離性ヒステリー」は「解離性障害」として改められた。更に、DSM-5では「身体表現性障害」は「身体症状症」に、「解離性障害」は「解離症」に改められた。本講義では両社の下位分類や支援の方法について学び、理解を深める。 key words：身体症状症、転換性障害、病気不安症、解離性健忘、解離性同一症、離人感・現実感消失症	
	第10回	こころの問題を理解する（3） 「摂食障害」 摂食障害は、極端な食事制限や大量の食糧摂取と排出行為など、摂食の問題が含まれる精神疾患であり、1980年代にDSMに登場して以降、先進国を中心に増加している。その背景として、やせを礼賛し体重増加を恐れる文化の影響や母子関係のつまり等が考えられる。本講義では摂食障害の種類と支援の方法について学び、理解を深める。 key words：神経性やせ症／神経性無職欲症、神経性過食症／神経性大食症	
	第11回	こころの問題を理解する（4） 「性障害・性別違和」 性に関する問題は周辺のテーマであると考えられがちで、教科書や講義で取り上げられることはあまりない。そのため、訓練を受けた専門家でも、性に関する知識を十分に持っていない場合がしばしばある。しかし、その一方で性とは、人間のアイデンティティの根幹にあってQOLに重大な影響を及ぼす事柄であり、臨床心理学でも大事なテーマになる。本講義ではDSM-5に収載されている3つの障害について理解を深め、その支援の方法について検討を行う。 key words：性機能不全、パラフィリア（性嗜好異常）、性別違和	

	<p>第12回 こころの問題を理解する(5) 「パーソナリティ障害」 パーソナリティ障害とは、思考・感情・行動などのパターンが平均から著しく逸脱し、社会生活や職業生活に支障をきたしている状態を指し、正常な状態とは言えないが病気であるとも言えない状態である。本講義ではパーソナリティ障害の分類と支援の方法について学び、理解を深める。 key words: 猜疑性/妄想性パーソナリティ障害, シゾイド/スキゾイドパーソナリティ障害, 統合失調型パーソナリティ障害, 境界性パーソナリティ障害, 演技性パーソナリティ障害, 自己愛性パーソナリティ障害, 反社会性パーソナリティ障害, 回避性パーソナリティ障害, 依存性パーソナリティ障害, 強迫性パーソナリティ障害</p> <p>第13回 こころの問題を理解する(6) 「気分障害」 DSM-IV-TRでは、気分障害とは感情が正常に機能しなくなった状態を指す。人は誰でも気分の浮き沈みを経験するが、気分障害においては、その浮き沈みの程度や期間が著しく、睡眠障害などの身体症状も現れる。本講義では気分障害の種類とその支援方法について学び、理解を深める。 key words: 双極Ⅰ型障害, 双極Ⅱ型障害, うつ病/大うつ病性障害</p> <p>第14回 こころの問題を理解する(7) 「統合失調症」 統合失調症は、幻覚や妄想という症状が特徴的な精神疾患である。それに伴って、人々と交流しながら家庭や社会で生活を営む機能が障害を受け(生活の障害); 「感覚・思考・行動が病気のために歪んでいる」ことを自分で振り返って考えることが難しくなりやすい(病識の障害)という特徴を併せもっている。本講義では統合失調症の種類と支援の方法について学び、理解を深める。 key words: 緊張型, 解体(破瓜)型, 妄想型</p> <p>第15回 生涯発達心理学 生涯発達心理学とは、誕生から死にいたるまでの間の生涯に渡る様々な変容過程を研究対象とし、そこに偏在する法則性を見出そうとする科学である。本講義では、エリクソンが区分した8つの発達段階と、それぞれの段階に固有の発達課題について学び、人間の生涯に渡る発達について理解を深める。 key words: 生涯発達心理学, エリクソン, 発達段階, 発達課題</p>
科目の目的	<p>臨床心理学とは、心の不健康な人々を健康へと導くために、心理学の理論や知識そして心理学的技法を用いて専門的援助を行う心理学の応用的な一分野である。本講義では、臨床心理学の基礎について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得する。</p> <p>ディプロマポリシー: 【知識・理解】</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床心理学が扱う心の問題と心の正常な機能、および問題を軽減して正常化を図る方法としての心理療法の正しい知識を身につけることを通して、人間への深い理解を形成する。 2. 人間への深みのある理解を通して、自己理解、他者理解、人間社会の理解を自分の言葉で表現できるようになる。 3. 保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得する。 4. 治療場面における患者の心理と患者とのコミュニケーションの方法について理解を深める。
関連科目	<p>【教養・共通基盤科目群】心理学, 教育学, 教育心理学, 生命倫理, 社会学 【専門基礎科目群】生理学Ⅰ・Ⅱ, 人間発達学, 公衆衛生学, 臨床神経学Ⅰ(神経内科学), 臨床神経学Ⅱ(小児神経学・脳神経外科学), 精神医学, 小児科学, リハビリテーション医学, 老年医学, カウンセリング, リハビリテーション関連領域論, 安全管理, 医療統計学, 障害者スポーツ・レクリエーション論 【専門科目群】小児理学療法, 理学療法特殊講義</p>
成績評価方法・基準	<p>定期試験(80%)に、毎回の受講後に作成する小レポートの評価(20%)を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う。</p>
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>準備学習の内容については前回の講義時に指示をする。各単元について、1時間程度の予習・復習を行うことを目安とする。</p>
教科書・参考書	<p>【教科書】 下山晴彦編著(2009)「よくわかる臨床心理学」 ミネルヴァ書房 山祐嗣・山口素子・小林知博編著(2009)「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」 北大路書房 ※ 必修科目「心理学」の教科書</p>
オフィス・アワー	<p>月・水・木・金の昼休み(1号館305研究室および1号館・4号館学生相談室)</p>
国家試験出題基準	<p>【理学療法士】 ≪専門基礎≫-Ⅱ-4-A-a ≪専門基礎≫-Ⅱ-4-A-b ≪専門基礎≫-Ⅱ-4-A-c ≪専門基礎≫-Ⅱ-4-B-a ≪専門基礎≫-Ⅱ-4-B-b ≪専門基礎≫-Ⅱ-4-B-c ≪専門基礎≫-Ⅱ-4-C ≪専門基礎≫-Ⅱ-4-D ≪専門≫-Ⅰ-3-E-a ≪専門≫-Ⅰ-3-E-b ≪専門≫-Ⅰ-3-F-a ≪専門≫-Ⅰ-3-F-b ≪専門≫-Ⅰ-3-F-c</p>
履修条件・履修上の注意	<p>講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業(他の科目の学習等)は禁止します。注意しても止めない場合や、それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ、その回の講義の出席を認めない場合もあります。</p> <p>「初級障がい者スポーツ指導員」の資格取得要件科目です。</p>

講義科目名称：安全管理

授業コード：2P076

英文科目名称：Security Management

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	必修
担当教員			
根生とき子			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：生体計測工学

授業コード：2P077

英文科目名称：Biomeasurement Engineering

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員			
目黒 力			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：医療統計学

授業コード：2P078

英文科目名称：Medical Statistics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
木村 朗			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：社会福祉・地域サービス論

授業コード：2P079

英文科目名称：Social Welfare and Community Services

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	選択
担当教員			
一場美根子			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
城下 貴司			

授業形態	講義(7コマ)・演習(8コマ)
授業計画	<p>1 障がい者福祉施策と障がい者スポーツ 関連法律、障害者手帳とその判定などの福祉制度と障害者スポーツの位置づけとそれに関わる施策の動向について学ぶ</p> <p>2 障害者福祉施策と障がい者スポーツ 障がい者スポーツの意義と理念 障害者スポーツの定義や社会的役割を学ぶ</p> <p>3 障がい者スポーツの意義と理念 障がい者スポーツの理解とスポーツ 身体障害(内部障害含む) 障害者スポーツの意義と理念とは、歴史的背景も含めて学ぶ</p> <p>4 障がい者スポーツの理解とスポーツ 身体障害(内部障害含む) 身体障害(内部障害含む)には障害者スポーツが存在する、それらを紹介し理解する</p> <p>5 (公財)日本障害者スポーツ協会公認 障がい者スポーツ指導者制度 障害者スポーツ指導者制度を紹介する</p> <p>6 全国障害者スポーツ大会概要 ボランティア論 全国障害者スポーツ大会について、その歴史から現状を理解する</p> <p>7 ボランティア論 ボランティアとは、その魅力、心得について学ぶ</p> <p>8 障害に応じたスポーツの工夫(実技) 実際に障害者スポーツを体験する 大学周辺にて車椅子操作を体験する</p> <p>9, 10, 11 障がいに応じたスポーツの工夫(実技) シドニーパラリンピック車椅子バスケットボール銅メダリスト塚本京子さんと上村知佳さんによる障害に応じたスポーツの工夫を学ぶ</p> <p>12, 13, 14, 15 障がい者との交流(実技)：体育棟 車椅子ラグビーチームを招致し障害者との交流をする</p>
科目の目的	「障害のない人はスポーツをした方がよいが、障害がある人はスポーツをしなければならない」というHeinz Freiの言葉からも障害者にとってスポーツは必修である、その障害者のためのスポーツを理学療法の立場から、その基地知識を学ぶ。 *ディプロマ・ポリシー：【関心・意欲】 【態度】
到達目標	各々の障害レベルに合わせたスポーツ指導を体験する
関連科目	【教養科目群】心理学，生命倫理，教育学，個人・家族と生活，個人・家族と社会，地域社会学，大学の学び入門 【専門基礎科目群】生理学Ⅰ・Ⅱ，人間発達学，臨床神経学Ⅰ（神経内科学），臨床神経学Ⅱ（小児神経学・脳神経外科学），精神医学，小児科学，リハビリテーション医学，老年医学，カウンセリング，リハビリテーション関連領域論，臨床心理学，安全管理，生体計測工学，医療統計学 【専門科目群】運動器系理学療法評価・治療学，小児理学療法学，理学療法特殊講義
成績評価方法・基準	課題レポート（テーマ「障害者スポーツ大会ボランティアを経験して」）100% ただし、欠席および遅刻は減点する
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	特に必要としないが、授業後は積極的に障がい者スポーツのボランティアに参加すること
教科書・参考書	教科書：障害者スポーツ指導教本 初級・中級 改訂版 株式会社ぎょうせい 参考書：全国障害者スポーツ大会競技規則集（解説付）公益財団法人日本障がい者スポーツ協会
オフィス・アワー	水曜日：12：10～13：00
国家試験出題基準	特になし
履修条件・履修上の注意	実技がある動きやすい服装で望むこと 下記単位を取得した後、「公益財団法人日本障がい者スポーツ協会」に「障がい者スポーツ指導員初級」を申請、登録費用を納めることにより資格取得が可能。 取得要件科目 科目名 必修・選択 開講学年・学期 障害者スポーツ・レクリエーション論 選択 1学年・前期 臨床心理学 必修 1学年・後期 安全管理必修 4学年・後期

講義科目名称：リハビリテーション工学

授業コード：2P081

英文科目名称：Rehabilitation Engineering

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
担当教員			
目黒 力			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
木村 朗			

授業形態	講義14コマ・学外実習（施設見学）1コマ
授業計画	<p>1回 オリエンテーション・イントロ 講義概要の説明・理学療法を知ったきっかけを話題としたグループワーク（GW）</p> <p>2回 理学療法とは1 「理学療法・士とは何か」理学療法の定義と歴史、ルーツの解説 「治らないものを治すとは？」</p> <p>3回 理学療法とは2 理学療法の役割と職域、「理学療法に求められていることは何か」身近な話題からGW</p> <p>4回 理学療法とは3 理学療法の対象の理解・身体の不自由な人は、どのように社会と歴史を生きてきたか（小説やドキュメンタリー、映画から感じる障害と考える障害を知る）</p> <p>5回 理学療法とは4 「障害とは」（社会の中の理学療法、リハビリテーションの中での理学療法の位置づけ</p> <p>6回 理学療法と社会の関わり 各種理学療法技術の歴史・理学療法を作ってきた人々1・世界の理学療法1 GW</p> <p>7回 理学療法技術の歩み1 理学療法を作ってきた人々2・世界の理学療法2 GW</p> <p>8回 理学療法技術の歩み2 関連職種の法律と理学療法士法（医師法・保助看法・理学療法士及び作業療法士法）・公衆衛生と理学療法</p> <p>9回 理学療法と法律 理学療法の法規 理学療法の実際（関連施設、学内の理学療法士と語る）</p> <p>10回 理学療法と管理・チームワーク 理学療法士に求められる倫理観（劇画、映像等）を基に語るGW</p> <p>11回 理学療法士のルーツ1 理学療法（学）の歩み、理学療法学徒として知っておくべき治療家の資料を収集しディスカッションを行う。</p> <p>12回 理学療法士のルーツ2 理学療法（学）の歩み、理学療法学徒として知っておくべき治療家の資料を収集しディスカッションを行う。</p> <p>13回 理学療法士のルーツ3 理学療法（学）の歩み、理学療法学徒として知っておくべき治療家の資料を収集しディスカッションを行う。</p> <p>14回 理学療法士のルーツ4 理学療法（学）の歩み、理学療法学徒として知っておくべき治療家の資料を収集しディスカッションを行う。</p> <p>15回 理学療法の実際を知る 施設見学の実施 見学を通して感じたこと、考えたことを授業の最初に考えたことと比べ、報告する</p>
科目の目的	「理学療法とは何か」について理学療法の定義、目的、歴史、対象や業務、職域など概説し、理学療法の全体像を理解することを目的とする。理学療法士に必要な知識・技術・態度を自ら考えられるようになることを目指し、講義への参加をジャーナルとしてまとめ自身の振り返りを行う。またグループワークや障害体験、理学療法体験など演習、施設見学を取り入れて理解を深める。学位授与の方針に適合し、生涯にわたって理学療法分野を探究し、その発展に貢献する意欲を向上させる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法の定義、対象、業務、歴史、保健医療福祉と社会的役割の点から理学療法を説明できる。 2. 理学療法技術の構成要素が言える。 3. 今後の学習に必要な学習内容を説明できる。 4. グループワークの中で自分の役割を果たし、かつ意見交換の記録を報告することができる。
関連科目	リハビリテーション概論、理学療法評価学、基礎理学療法学、日常生活活動学ほか
成績評価方法・基準	ジャーナル（毎回の講義の振り返り）の提出（50%）、プレゼンテーション（25%）、小テスト（約25%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各講義題目内容に対し、教科書・参考書の該当部分を読み、理解しづらい単語や概念をノートに記載し、調べておくこと。約90分。
教科書・参考書	教科書：理学療法概論テキスト 細田多穂他 南江堂 参考書：理学療法のルーツ 武富由雄 共同医書出版
オフィス・アワー	火or水12:10～12:50（木村研究室）

国家試験出題基準	3-1. D-a1・2
	専門基礎 3-1. D 関連法規 a 医療法規 1医療法 2理学療法士法及び作業療法士法
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
中 徹			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 健康の状態としての障がい～障がいと健康、異常と正常、否定と肯定の間～障がいの定義と広がりを理解する</p> <p>第2回 ヒトとしての障がいの種類と内容 ～形態と機能の不具合さ～形態と機能の用語を理解し、それが不自由であることの意味を理解する</p> <p>第3回 ヒトとしての障がいの種類と内容 ～形態と機能の不具合さ～形態と機能の関連性を理解し、その不自由さのメカニズムを理解する</p> <p>第4回 ヒトとしての障がいの種類と内容 ～形態と機能の関連性2～実例をもって形態と機能の関連性を理解し、その不自由さのメカニズムを理解する</p> <p>第5回 人・人間としての障がいの種類と内容～活動の制限と参加の制約運動能力の障害を理解し、その不自由さのメカニズムを理解する</p> <p>第6回 障がいにとっての個人・環境因子 ～介入と考慮のちがい～個人因子と環境因子の定義を理解し、障がいへの影響を理解する</p> <p>第7回 ICFまとめ～ICFと理学療法の関係 理学療法の実施に対してICFが答えていることを理解する</p> <p>第8回 ICFの実例に基づく演習 演習としてICFの概念と広がりについて、実例をもって説明できる</p> <p>第9回 形態の障がいの病態と原因（骨-支持体） 形態としての骨について理解を深める</p> <p>第10回 機能の障がいの病態と原因1（運動器=骨・関節-フレーム） 関節を構成する骨について理解を深める</p> <p>第11回 機能の障がいの病態と原因2（運動器=筋1-アクチュエーター） 関節を動かす筋の性質を理解する</p> <p>第12回 機能の障がいの病態と原因3（運動器=筋2-アクチュエーター） 筋の物性を理解する</p> <p>第13回 機能の障がいの病態と原因4（神経系=脳と脊髄1-制御） 神経系の機能分担を理解する</p> <p>第14回 機能の障がいの病態と原因5（神経系=脳と脊髄2-制御） 運動制御における神経の役割を理解する</p> <p>第15回 機能の障がいの病態と原因6（呼吸・循環系=心肺機能-エネルギー） 運動にとっての呼吸循環器系の働きを理解する</p>
科目の目的	「障がい」の概念をICF（国際生活機能分類）で理解する 機能の障がいの三領域（運動器障害・神経系障害・循環器系障害）の病態を理解する 本授業はディプロマポリシー1の「知識・理解を高めること」を目的とした科目である。
到達目標	ICFの概念図を書いてそれぞれの因子と関係性を説明できる 機能障害の病態とそれに対応する理学療法について説明できる
関連科目	基礎となる科目・・・理学療法概論 将来繋がる科目・・・全ての専門科目
成績評価方法・基準	提出課題40%＋試験60%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	ICFテキストの各回該当部分の予習と復習（90分程度） 講義資料の各回該当部分の予習と復習（90分程度）
教科書・参考書	第1～8回 教科書；障害者福祉研究会（編集）：ICF国際生活機能分類－国際障害分類改訂版、中央法規出版 第9～15回 教科書なし；講義資料を配布する
オフィス・アワー	月曜日終日
国家試験出題基準	《専門》 I-1-D 《専門》 I-3-B・C・D 《専門》 II-7-B・C・D・E・F・G・H
履修条件・履修上の注意	前半は社会科学・後半は自然科学の授業で広範囲な内容なので、予習と復習を十分に確保すること

講義科目名称：理学療法セミナー

授業コード：2P084

英文科目名称：Seminar on Physical Therapy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員			
岡崎 大資			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：理学療法特論

授業コード：2P085

英文科目名称：Advanced Physical Therapy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	必修
担当教員			
目黒 力			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：臨床推論演習

授業コード：2P086

英文科目名称：Preparatory Practice in Bedside

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
鈴木 学			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：理学療法研究論

授業コード：2P087

英文科目名称：Physical Therapy Research

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員			
木村 朗			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：理学療法管理学

授業コード：2P088

英文科目名称：Physical Therapy Management

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
担当教員			
岡崎 大資			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：卒業研究

授業コード：2P089

英文科目名称：Graduation Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	2単位	選択
担当教員			
木村 朗			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員			
加藤 仁志			
中 徹	黒川 望	橋口 優	鳥海 亮

授業形態	講義3回、演習12回
授業計画	<p>1 講義（担当：中） 理学療法評価の概念・目的</p> <p>2 講義（担当：中） 理学療法における評価の種類（時期と対象）、問題解決のための評価過程</p> <p>3 講義（担当：加藤） 講義の概要・ガイダンス、形態測定の意義と目的、測定方法</p> <p>4 演習（担当：加藤、橋口、鳥海） 形態測定の方法</p> <p>5 演習（担当：加藤、橋口、鳥海） 関節可動域測定の意義と目的、測定方法</p> <p>6 演習（担当：加藤、黒川、橋口、鳥海） 関節可動域測定（上肢・頸部）1</p> <p>7 演習（担当：加藤、黒川、橋口、鳥海） 関節可動域測定（上肢・頸部）2</p> <p>8 演習（担当：加藤、黒川、橋口、鳥海） 関節可動域測定（上肢・頸部）3</p> <p>9 演習（担当：加藤、黒川、橋口、鳥海） 関節可動域測定（上肢・頸部）4</p> <p>10 演習（担当：加藤、黒川、橋口、鳥海） 関節可動域測定（上肢・頸部）5</p> <p>11 演習（担当：加藤、黒川、橋口、鳥海） 関節可動域測定（下肢・胸腰部）1</p> <p>12 演習（担当：加藤、黒川、橋口、鳥海） 関節可動域測定（下肢・胸腰部）2</p> <p>13 演習（担当：加藤、黒川、橋口、鳥海） 関節可動域測定（下肢・胸腰部）3</p> <p>14 演習（担当：加藤、黒川、橋口、鳥海） 関節可動域測定（下肢・胸腰部）4</p> <p>15 演習（担当：加藤、黒川、橋口、鳥海） 関節可動域測定（下肢・胸腰部）5</p>
科目の目的	<p>1. 理学療法評価の意義、目的、評価の過程を知ること。</p> <p>2. 形態測定、関節可動域測定の知識と技術を取得すること。</p> <p>【知識・理解】</p>
到達目標	<p>1. 理学療法評価の意義、目的、その過程を言及できる。</p> <p>2. 評価時に理学療法士が配慮すべき点を列挙できる。</p> <p>3. 形態測定、関節可動域測定が実施できる。</p>
関連科目	解剖学、運動学、理学療法概論、表面解剖学と触診法、理学療法評価学演習、運動療法総論、運動器系理学療法評価・治療学、神経系理学療法評価・治療学、呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学、見学実習、評価学実習、総合臨床実習
成績評価方法・基準	小テスト（5%）、中間テスト（10%）、実技テスト（10%）、定期テスト（70%）、課題（5%） ただし、単位認定のためには実技テスト、定期テストそれぞれでの60%以上の獲得、課題提出を条件とする。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	身体のランドマーク、関節可動域測定の基本軸、移動軸、参考可動域を演習実施までに全て暗記すること。 各演習前には必ず実技の予習を、各演習後には必ず実技の復習を行い、知識と技術を習得すること。 必要な学習時間の目安は、上記を果たすことができる時間を各自設定することになる。
教科書・参考書	教科書：「理学療法評価学改訂第5版」松澤正、江口勝彦著（金原出版） 参考書：特に指定しない。理学療法評価に関する書籍全般。
オフィス・アワー	開講日の昼休み
国家試験出題基準	<p>《専門基礎》Ⅱ-2-B-a、Ⅲ-1-A-e</p> <p>《専門》Ⅱ-1-A、2-A、B、C-a、D、E-a～d、F、G、H Ⅱ-3-A-a～g、B-a～e、C-a～h、D、E-a～c、F-a Ⅱ-5-A、B-a～d、C V-1-C、D、E、F</p>

履修条件・履修上の注意	演習時は測定しやすい・されやすい服装、測定器具を準備する。
-------------	-------------------------------

講義科目名称：理学療法評価学演習

授業コード：2P091

英文科目名称：Practice in Physical Therapy Evaluation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
黒川 望			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：臨床動作分析学

授業コード：2P092

英文科目名称：Clinical analysis of human daily motions

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
高橋 正明			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：運動療法総論

授業コード：2P093

英文科目名称：Therapeutic Exercise

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
加藤 仁志			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：運動器系理学療法評価・治療学

授業コード：2P094

英文科目名称：Evaluation and Therapy of Musculoskeletal Physic...

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
担当教員			
城下 貴司			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：運動器系理学療法評価・治療学演習 I

授業コード：2P095

英文科目名称：Practice in Evaluation and Therapy of Musculosk...I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
城下 貴司			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：運動器系理学療法評価・治療学演習Ⅱ

授業コード：2P096

英文科目名称：Practice in Evaluation and Therapy of Musculos...II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
城下 貴司			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：神経系理学療法評価・治療学

授業コード：2P097

英文科目名称：Evaluation and Therapy of Neurological Physical …

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
担当教員			
鈴木 学			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：神経系理学療法評価・治療学演習 I

授業コード：2P098

英文科目名称：Practice in Evaluation and Therapy of Neurologi...I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
鈴木 学			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：神経系理学療法評価・治療学演習Ⅱ

授業コード：2P099

英文科目名称：Practice in Evaluation and Therapy of Neurolog…Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
鈴木 学			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学

授業コード：2P100

英文科目名称：Evaluation and Therapy of Cardiopulmonary Physic...

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
担当教員			
仲保 徹			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学演習 授業コード：2P101

英文科目名称：Practice in Evaluation and Therapy of Cardiopulm...

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員			
木村 朗			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：小児理学療法学

授業コード：2P102

英文科目名称：Pediatric Physical Therapy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員			
中 徹			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：理学療法特殊講義

授業コード：2P103

英文科目名称：Special Lecture of Physical Therapy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員			
木村 朗			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：物理療法学

授業コード：2P104

英文科目名称：Physical Agents

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
担当教員			
黒川 望			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：物理療法学演習

授業コード：2P105

英文科目名称：Practice in Physical Agents

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
目黒 力			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：装具学

授業コード：2P106

英文科目名称：Orthotics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
担当教員			
橋口 優			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：義肢学

授業コード：2P107

英文科目名称：Prosthesis

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員			
平井 正利			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：徒手系理学療法学

授業コード：2P108

英文科目名称：Orthopedic Manipulative Physical Therapy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員			
城下 貴司			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：スポーツ傷害理学療法学

授業コード：2P109

英文科目名称：Physical Therapy for Sports Injuries

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員			
城下 貴司			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：日常生活活動学

授業コード：2P110

英文科目名称：Activities of Daily Living

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
担当教員			
浅田 春美			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：日常生活活動学演習

授業コード：2P111

英文科目名称：Practice in Activities of Daily Living

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
浅田 春美			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：地域理学療法学

授業コード：2P112

英文科目名称：Community Based Physical Therapy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
担当教員			
加藤 仁志			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：地域理学療法学演習

授業コード：2P113

英文科目名称：Practice in Community Based Physical Therapy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員			
加藤 仁志			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：生活環境学

授業コード：2P114

英文科目名称：Human Life and Environment

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
担当教員			
目黒 力			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：環境理学療法学

授業コード：2P115

英文科目名称：Physical Therapy in Human Life and Environment

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	2単位	必修
担当教員			
目黒 力			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：見学実習

授業コード：2P116

英文科目名称：Clinical Clerkship

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
加藤 仁志			

授業形態	実習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：評価学実習

授業コード：2P117

英文科目名称：Bedside Evaluation Praciticum

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	3単位	必修
担当教員			
橋口 優			

授業形態	実習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：総合臨床実習 I

授業コード：2P118

英文科目名称：Comprehensive Clinical Practicum I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	7単位	必修
担当教員			
鈴木 学			

授業形態	実習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：総合臨床実習Ⅱ

授業コード：2P119

英文科目名称：Comprehensive Clinical Practicum II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	7単位	必修
担当教員			
鈴木 学			

授業形態	実習
授業計画	※今年度開講せず
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	